

学生の確保の見通し等を記載した書類

学生の確保の見通し等を記載した書類.....	2
1 章 新設組織の入学定員設定の考え方及び定員を充足する見込み.....	2
1 医学部医療創成工学科の概要.....	2
1.1 医学部医療創成工学科の概要.....	2
1.2 医療創成工学科の特色.....	2
2 客観的データ分析.....	5
2.1 中長期的な18歳人口等入学対象者人口の全国的、地域的動向.....	5
2.1.1 中長期的な18歳人口についての分析.....	5
2.1.2 学問系統からの分析.....	9
2.2 主な学生募集地域.....	10
2.3 定員充足の状況.....	10
3 学生確保の見通し.....	11
3.1 競合校の状況分析.....	11
3.1.1 競合校の選定と医療創成工学科との比較分析、優位性.....	11
3.1.2 競合校の入学志願動向等.....	13
3.1.3 学生納付金等の金額設定の理由.....	14
4 新設組織の定員設定の理由.....	14
5 学生確保に関するアンケート調査.....	15
2 章 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果.....	17
6 学生の確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果.....	17
6.1 既設組織における取組とその目標.....	17
6.2 新設組織における取組とその目標.....	17
3 章 新設組織で養成する人材の社会的要請や人材需要の動向.....	19
7 養成する人材の全国的、地域的、社会的動向.....	19
8 人材需要に関するアンケート調査等.....	20

1 章 新設組織の入学定員設定の考え方及び定員を充足する見込み

1 医学部医療創成工学科の概要

1.1 医学部医療創成工学科の概要

長寿社会を迎えた日本において健康寿命に対する国民の期待は高まっており、次世代の成長産業としての国産医療機器開発は非常に重要である。

しかしながら現在、国内で使用されている高度管理医療機器の大半は欧米製で、毎年1兆円程度の貿易赤字が生じている。よって、国産医療機器の開発体制整備は社会的要請事項である。

新しい医療機器の開発を主導するためには、ものづくりの基礎となる工学的な素養と医学の基礎知識を併せ持つとともに、実用化のための突破力を持つ創造的開発人材の育成が不可欠であり、日本型の医療機器開発エコシステムの構築が求められる。そのためには、最も創造性が必要な医療機器初期開発の分野において、「創造の基礎となる工学及び医学の基礎知識を修得し、医療機器の開発チームに実際に所属しながら、実践経験の中で医療機器の開発力を鍛錬する」教育が必要不可欠である。現在我が国には医学・工学の基礎知識や素養を学びながら領域横断的な創造的開発人材を育成するために、学生を実際に医療機器の開発チームに所属させ開発の実体験を提供している大学はなく、国内における医工学連携を分析し、学科から始まる日本の実情に即した教育プログラムを提供できる、生命・医学系および工学系の教育リソースを融合した新しい教育組織が必要である。

これらを踏まえ、神戸大学（以下「本学」という。）では、医工融合型の実践的な新教育組織として、本学医学部に医療創成工学科（以下「本学科」という。）を設置するものである。

新設組織	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	所在地
神戸大学医学部医療創成工学科	25	5	110	神戸市中央区楠町7丁目5-1

1.2 医療創成工学科の特色

我が国においては、イノベーションが十分に起こらず日本発の医療機器が十分に創出されていない現状から、国産医療機器の開発体制整備に向けて、ものづくりの基礎となる工学的な素養と医学の基礎知識を併せ持ち医療機器開発の創造的な思考を有する人材が必要となる。また、医療機器開発には医療現場のニーズを踏まえた開発が必須であり、医療関係者の実際の使用を通じた改善・改良・普及を行うために医療関係者と企業や工学系研究者間の相互連携を促進できる人材が必要である。さらに、医療関係者は臨床や研究が活動の中心となっており、医療機器開発やビジネスに携わる者が相対的に少ないため、臨床ニーズを見出し研究開発から事業化までけん引可能な人材の養成についても社会から求められている。

本学科においてはこれらの社会要請に応えるため、以下のような取り組みにより、医療機器開発に必要な知識に加え医療機器開発を題材として問題解決に必要な未来思考と基本的な素養を有し、自ら課題を設定し解決策を見出す能力を有する創造的開発人材を養成する。

- ・ 創造的思考（問題解決力）の育成

激動する現代において、どのような環境下でも社会における真の要望（ニーズ）を見出し、あるべき未来を思考して既存の常識にとらわれない新たな方法を発想できる力を育てる。個の中の多様性と組織の多様性のある開発環境を構築することで、集合知により発想した新たな方法の様々な課題を解決し、社会で実現する力（突破力）を育成する。

- ・ コミュニケーションスキル（情報発信力）の育成

医学部の下に本学科を設置することにより、医療現場実習や課題解決型演習などで医学科生や医師等と積極的に関わることができ、それにより医療機器開発に関わる様々な職種の医療従事者との良好な人間関係構築できるコミュニケーション能力と複眼的な思考力を養成する。また、この関係性のもとで臨床現場のニーズを的確に把握した上でのプロトタイプの実験を行い、現場・患者目線の医療機器開発ができる環境を構築し、得られた自らの成果を発信する能力を育成する。

- ・ 批判的思考（情報分析力）、インタラクションスキル（交渉力）の育成
医療機器市場や規制・保険行政の状況を調査・分析を行いながら、医療機器開発の初期段階からアイデアの創出からプロセスの全体像を理解した上で事業に着手できるような複眼的な思考力を養成し、出口を意識した教育を実施する。

本学科の主な特徴は以下のとおりである。

① 医学部に新学科を設置

医療機器開発の人材を養成するために必要な能力の一つとして、「医学的基礎知識とものづくりの基礎となる工学的素養を併せ持ち、社会や医療現場のニーズに対して最も適切な医療機器やシステムを創出する能力」をディプロマ・ポリシーとして設定している。本学科では、医学部に医工融合型の学科を設置することで、実際の現場での実習を体得しながら、医療従事者・医学部生との人的ネットワークの形成を通じて、医療機器開発の実践を行う際に協力体制を築き、より医療現場のニーズを踏まえた適切な医療機器やシステムを創出する能力を養成することが可能となるような仕組みを構築している。

② 医療機器開発を目指した実践的なカリキュラム

本学科では、ものづくりの基礎となる工学的な素養と医学の基礎知識を併せ持ち医療機器開発の創造的な思考を有する人材を養成するために、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに従い医療機器開発を目指した実践的で体系的な教育課程を編成している。基礎的知識を修得するための専門基礎科目群（医学基礎科目、工学基礎科目）に加え、医療機器開発の初期段階であるアイデアの創出からプロセスの全体像を理解した上で事業に着手するための医療機器学科目群（医療機器学基礎科目および医療機器学社会実装科目）、創造的な思考を養成するための創造性科目群（創造性教育科目、卒業研究）を開講するなど、医療機器開発に必要な体系的な教育課程を編成している。

また、本学では、本学科の設置に先駆けて令和5年度に医療創成工学専攻を設置し、医療機器開発を主導することができる創造的開発人材の養成を行っており、学部から大学院まで一貫した医療機器開発に関する基礎から実践までの教育を実施することが可能となる。

本学科の学生は、医療機器開発における全体のプロセスを理解し知識を修得したのち、卒業後の進路として、医療機器メーカーやものづくり企業、官公庁・自治体、規制当局などへの就職を想定している。

③ 創造性教育科目

本学科の特徴的な科目として「創造性教育科目」を開講する。創造性教育は、どのような環境下でも社会における真のニーズ（問題・要望）を見出しながら、あるべき未来を思考して既存の常識にとらわれない「新たな方法を発想できる力」を養成するとともに、個の中の多様性と組織の多様性のある開発環境を構築することで、集合知により発想した新たな方法の様々な課題を解決し、「社会で実現する力（突破力）」を養成するための教育である。

創造性教育科目では、思考習慣を中心に学修しながらデザイン思考・システム思考・問題解決アプローチ演習などの創造性を涵養するための様々な手法を用いた入学定員25名の少人数である点を活かした教育を提供する。さらに、医療機器開発に必要な医療機器コンセプト創造型として演習や実習などを創造性教育に導入することで、医療機器開発の初期段階

から複眼的な思考によって既存の常識にとらわれない新たな方法を発想できる力を養成する教育課程を編成している。

④ 神戸未来医療構想での医療機器開発の現場との連携

本学は、神戸市や産業界とともに内閣府の地方大学・地域産業創生交付金事業の神戸未来医療構想での神戸医療産業都市における、医療機器開発の集積拠点の構築に参画しており、令和元年度に医工学研究拠点として全学センターである「未来医工学研究開発センター」を設置し、医療機器の研究開発や人材養成を行っている。本学では、神戸大学医学部附属病院国際がん医療・研究センターの隣接地に集合知を形成し、臨床医、工学研究者、企業技術者、薬事専門家、学生および外部からの新たな種が集い交流することのできる研究・教育の拠点を形成することとしており、医療創成工学専攻および本学科の学生もこの集合知である医療機器開発現場での実践的教育から研究までの取り組みに参画するなど実践的に学修する機会を設定している。

⑤ 臨床工学技士の資格取得

医療機器開発には、医学的基礎知識とものづくりの基礎となる工学的素養を併せ持ち、社会や医療現場のニーズに対して最も適切な医療機器やシステムを創出する能力や社会のニーズを見出し、それに応える方法を考え、実現や普及に向けての問題を解決し、未来社会を創造できる能力が必要である。しかしながら、このような人材が医療現場に入るためには、医師の監視のもとに現場に入る許可が必要となる。さらに医療機器を開発するためには、各種医療機器の仕組みや使用方法などを理解しておくことも重要である。臨床工学技士は、実際の医療現場に入るための資格を得ることができ、医療機器を使いこなせるような能力を身につけることができる。従って、医療機器開発における大きなインセンティブとなることが見込まれる。そのため、本学科においては、臨床工学技士法第 14 条第 4 号の規定に基づく臨床工学技士の受験資格を取得するための科目を卒業要件外の自由科目として開講することとしている。

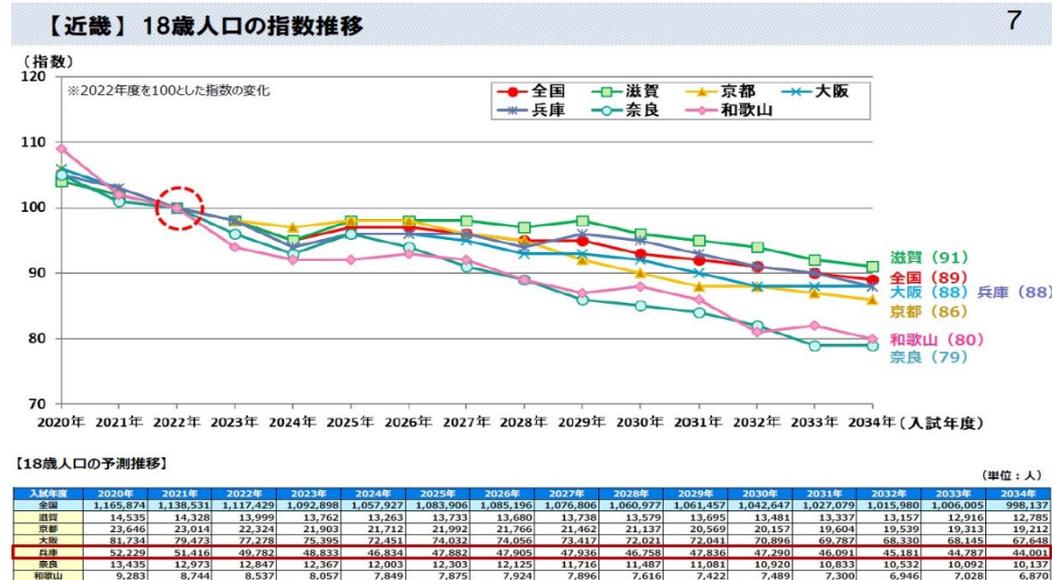
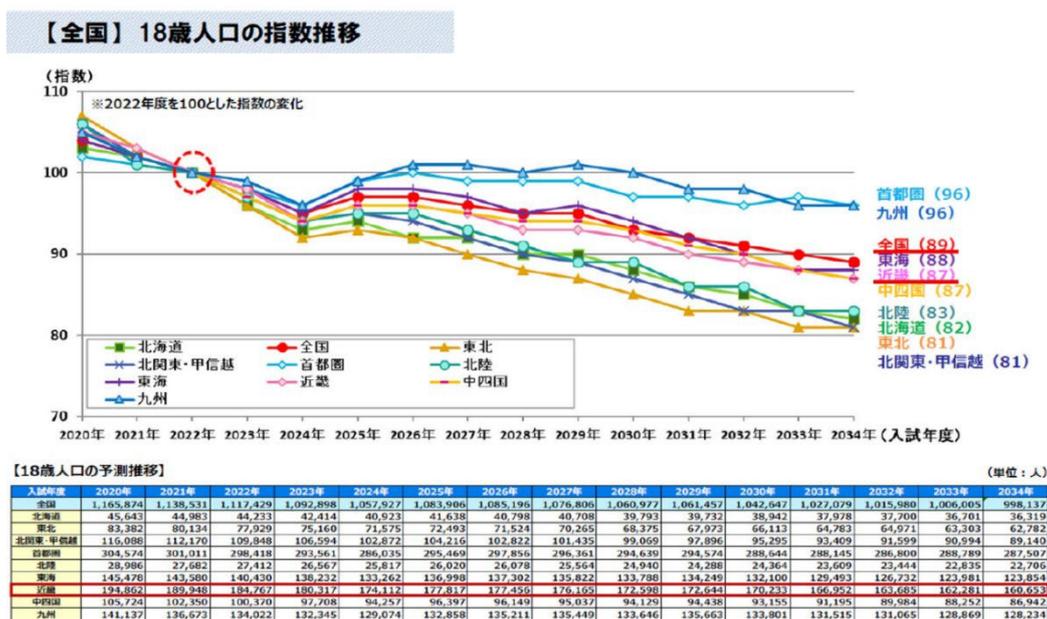
2 客観的データ分析

2.1 中長期的な 18 歳人口等入学対象者人口の全国的、地域的動向

2.1.1 中長期的な 18 歳人口についての分析

【18 歳人口の推移】

我が国の 18 歳人口の 2034 年までの推移については、図表 1 に示すとおり、2034 年の 18 歳人口は 2022 年と比較して全国では 89% と全体的に減少傾向である。2034 年の 18 歳人口においては、近畿圏は 16 万人（対 2022 年比 87%）、兵庫県は 4.4 万人（対 2022 年比 88%）である。

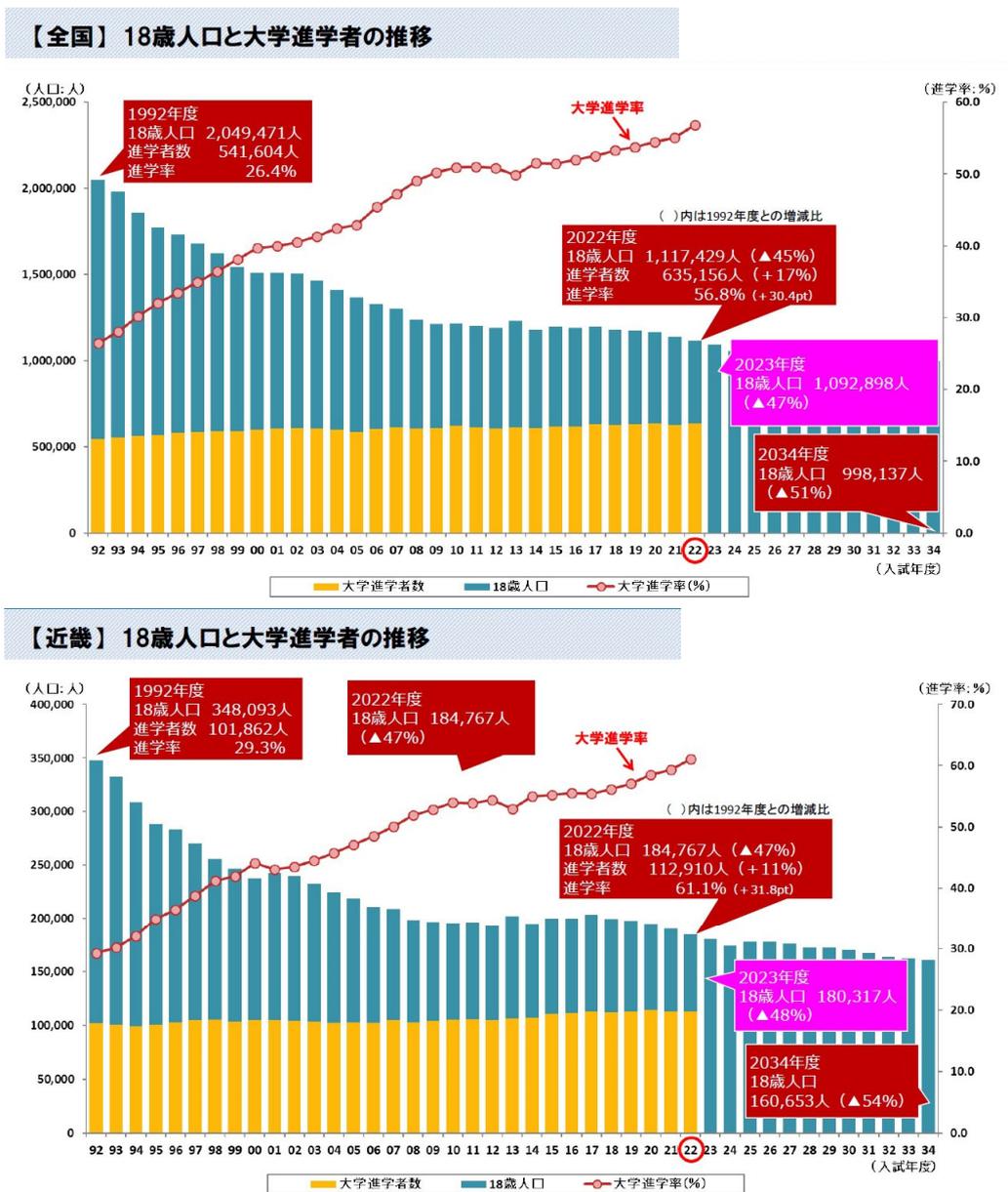


図表 1 : 全国および近畿圏の 18 歳人口の指数推移および予測推移
 (文部科学省「学校基本調査(確定値)」より)

【大学進学者の推移】

大学進学者数の推移については、図表2に示すとおり、全国における大学進学者数は30年前の1992年は54万人であったが、2022年には63万人となり、93,552人(17%)増加している。

近畿圏においては、1992年は10.1万人であったが、2022年には11.3万人となり、11,048人(11%)増加しており、大学への進学者数は増加傾向にあるといえる。



18歳人口：3年前の中学校卒業生数+3年前の中等教育学校前期課程の修了者数
進学率：当該年度の大学進学者（過年度卒業者も含む）÷18歳人口

図表2：全国および近畿圏の18歳人口と大学進学者の推移
(文部科学省「学校基本調査(確定値)」より)

【大学進学率】

18歳人口の大学進学率（2022年）については、図表3に示すとおり、経年で上昇傾向にある。近畿においては、2021年は59.3%、2022年は61.1%となり、1.8%上昇。2013年の53.0%に比べ、2022年は8.1%上昇している。

兵庫県では、2022年が59.6%で、2021年の57.9%に比べ、1.7%上昇している。また、2013年においては、53.0%だったのに比べて6.6%上昇している。

【2034年の大学進学者数】

大学進学率においては、2034年までの進学率は引き続き上昇することが予測される。2013年から2022年までの進学率の上昇率がそのまま継続すると考えた場合には、2034年の12年間で、近畿圏では70.82%、兵庫県では67.52%になると予測される。

2034年の18歳人口の予測は、近畿圏では160,653名、兵庫県では44,001名であることから、2034年の大学進学者数は、近畿圏では113,774名、兵庫県では29,709名となり、2022年の大学進学者数（近畿圏112,910名、兵庫県29,656名）の人数と比較してもほぼ横ばいであり、歩留まりは考えられるものの、大きく減少することはないと推察される。

【近畿】18歳人口・大学進学者数等の10ヵ年推移

項目	年度										13年と22年の比較	
	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2022/2013	2022/2013
18歳人口	201,538	194,920	199,788	199,955	203,611	199,747	197,547	194,862	189,948	184,767	▲ 16,771	92
大学進学者数	106,719	107,183	110,340	110,945	112,900	112,175	112,702	113,923	112,631	112,910	6,191	106
大学進学率	53.0	55.0	55.2	55.5	55.4	56.2	57.1	58.5	59.3	61.1	8.1	—
地元大学進学者数	47,607	47,890	49,659	50,783	52,029	51,999	51,873	52,694	52,967	53,385	5,778	112
地元大学進学率	44.6	44.7	45.0	45.8	46.1	46.4	46.0	46.3	47.0	47.3	2.7	—

【兵庫県】18歳人口・大学進学者数等の10ヵ年推移

項目	年度										13年と22年の比較	
	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2022/2013	2022/2013
18歳人口	54,542	52,978	53,706	54,119	54,774	53,848	53,233	52,229	51,416	49,782	▲ 4,760	91
大学進学者数	28,898	28,882	29,310	29,241	30,147	29,951	29,986	29,980	29,769	29,656	758	103
大学進学率	53.0	54.5	54.6	54.0	55.0	55.6	56.3	57.4	57.9	59.6	6.6	—
地元大学進学者数	13,090	13,002	13,138	13,323	13,790	13,864	13,629	13,473	13,184	13,380	290	102
地元大学進学率	45.3	45.0	44.8	45.6	45.7	46.3	45.5	44.9	44.3	45.1	▲ 0.2	—

図表3：近畿圏および兵庫県の18歳人口・大学進学者等の10ヵ年推移
(各年度 文部科学省「学校基本調査」に基づく)

【兵庫県内の大学への進学者数の県内・県外割合】

兵庫県内の大学への進学者数については、図表4に示すとおり 26,452 名である。この内、兵庫県内の 18 歳人口は 13,380 名 (50.6%) であり、兵庫県の大学への進学者数は、半分が県内からの進学者であり、半分が県外からの進学者となる。

滋賀				京都				大阪			
順	合計	7,382	占有率	順	合計	34,735	占有率	順	合計	55,267	占有率
1	滋賀	1,558	21.1	1	京都	8,470	24.4	1	大阪	27,989	50.6
2	京都	1,363	18.5	2	大阪	7,151	20.6	2	兵庫	7,564	13.7
3	大阪	1,241	16.8	3	滋賀	3,121	9.0	3	京都	3,232	5.8
4	愛知	478	6.5	4	兵庫	2,831	8.2	4	奈良	3,110	5.6
5	兵庫	419	5.7	5	奈良	1,623	4.7	5	和歌山	1,724	3.1
6	岐阜	215	2.9	6	愛知	1,251	3.6	6	滋賀	1,203	2.2
7	奈良	215	2.9	7	広島	714	2.1	7	広島	865	1.6
8	三重	141	1.9	8	岡山	596	1.7	8	岡山	735	1.3
9	静岡	135	1.8	9	福岡	587	1.7	9	愛知	696	1.3
10	福岡	134	1.8	10	静岡	552	1.6	10	三重	653	1.2

兵庫				奈良				和歌山			
順	合計	26,452	占有率	順	合計	4,614	占有率	順	合計	2,122	占有率
1	兵庫	13,380	50.6	1	大阪	1,455	31.5	1	和歌山	827	39.0
2	大阪	4,989	18.9	2	奈良	1,161	25.2	2	大阪	790	37.2
3	京都	774	2.9	3	京都	389	8.4	3	兵庫	100	4.7
4	岡山	609	2.3	4	兵庫	278	6.0	4	奈良	55	2.6
5	奈良	577	2.2	5	三重	122	2.6	5	愛知	33	1.6
6	広島	515	1.9	6	和歌山	92	2.0	6	京都	26	1.2
7	香川	504	1.9	7	愛知	90	2.0	7	三重	23	1.1
8	愛知	383	1.4	8	滋賀	70	1.5	8	静岡	21	1.0
9	愛媛	344	1.3	9	岡山	69	1.5	9	愛媛	18	0.8
10	福岡	341	1.3	10	静岡	61	1.3	10	岐阜	16	0.8

図表4：2022年の近畿圏の大学進学者の流入状況
(文部科学省「学校基本調査(確定値)」より)

【2034年の兵庫県の大学への進学者数】

【2034年の大学進学者数(図表3)】および【兵庫県内の大学への進学者数の県内・県外割合(図表4)】の状況から、2034年の兵庫県の大学進学者数 29,709 名のうち、半数(50.6%)の 15,027 名は県内の大学に進学し、同数の 15,000 名程度は県外から流入する学生であることから、

30,000 名程度の 18 歳人口である学生が兵庫県内の大学に進学することが見込まれる。

このように、2022年の兵庫県の大学進学者数である 26,452 名よりも増加することが見込まれることから、2022年度と同様かそれ以上の受験者が本学を受験することが推察されるため、中長期的な 18 歳人口による定員充足が可能であると考えられる。

2.1.2 学問系統からの分析

学問系統の志願状況（全国、近畿）については、株式会社進研アドに調査依頼を行った。調査内容は、2021 年度及び 2023 年度の入試年度から、以下の条件の大学の募集人員・志願者を抽出し分析を行った。

- ・ 対象大学：国公立大学の一般選抜
- ・ エリア：全国エリアおよび近畿エリア
- ・ 学問系等：本学科を志願すると思われる学問系統である 4 分野。「工学分野」（うち、「機械工学分野」「情報工学分野」はそれぞれ抽出）、「保健衛生分野」、「医療技術分野（全国のみ）」

分析の結果は次のとおりである。（2023 年度の対 2021 年度比、実質倍率は倍率）

- ・ 工学分野：募集人員は全国エリア（99%）では微減、近畿エリア（96%）ではやや減少。志願者数は全国エリア（96%）、近畿エリア（97%）ともにやや減少。実質倍率は近畿エリア（3.1 倍）で全国エリア（2.4 倍）を上回る。
- ・ 機械工学分野：募集人員は全国エリア（100%）では横ばい、近畿エリア（93%）では減少。志願者数は全国エリア（99%）では微減、近畿エリア（86%）では減少。実質倍率は近畿エリア（8.0 倍）で全国エリア（3.0 倍）を大きく上回る。
- ・ 情報工学分野：募集人員は全国エリア（110%）、近畿エリア（102%）ともに増加、志願者数は全国エリア（102%）では増加、近畿エリア（128%）では大きく増加。実質倍率は近畿エリア（2.2 倍）で全国エリア（2.6 倍）を下回る。
- ・ 保健衛生分野：募集人員は全国エリア（101%）、近畿エリア（100%）ともに横ばい、志願者数は全国エリア（100%）では横ばい、近畿エリア（111%）では大きく増加。実質倍率は近畿エリア（2.4 倍）で全国エリア（2.3 倍）をやや上回る。
- ・ 医療技術分野（全国のみ）：募集人員は全国エリア（108%）で増加。志願者数は全国エリア（106%）で増加、実質倍率は 2.2 倍で 2021 年度比で横ばい。

分析結果から、志願者数は全国エリア・近畿エリアいずれも減少傾向にあり、近畿地区における実質倍率は、一部は全国を下回っているものの、全国エリアの実質倍率を上回っており、特に本学科の学生の主となる学問系統である機械工学分野においては非常に高い倍率 となっていることから、学問系統においても本学科の定員充足が可能であると考えられる。

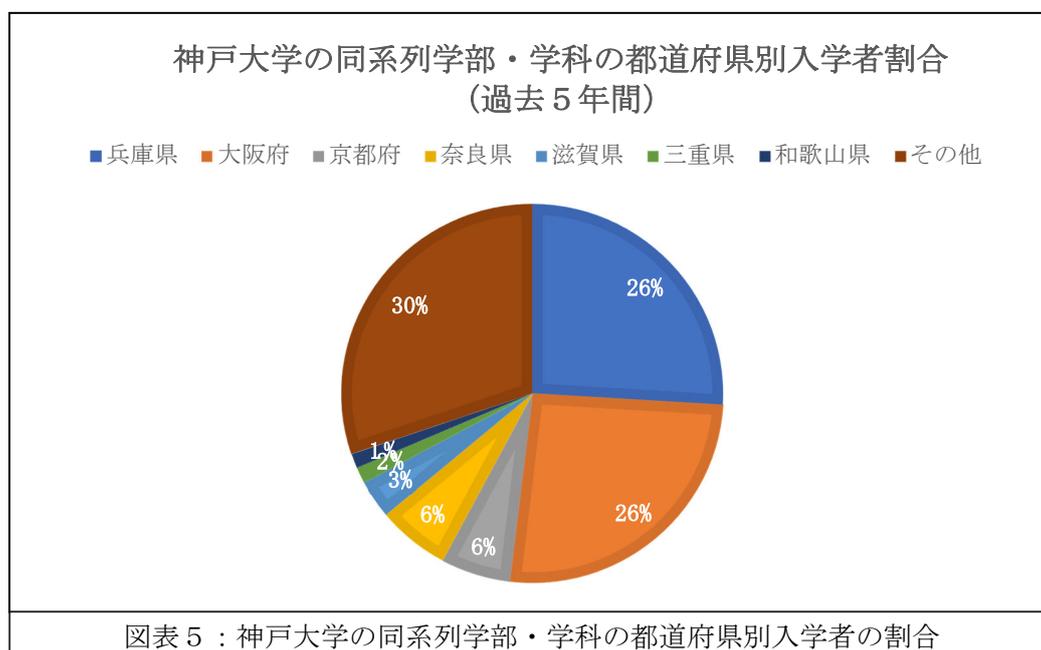
2.2 主な学生募集地域

主な学生募集地域においては、図表5に示すとおり、本学科の同系列となる本学の学部・学科における過去5年間の入学者を集計し、府県別の入学者の割合を算出した。

その結果、兵庫県 26.0%、大阪府 26.0%、奈良県 6.1%、京都府 5.9%、滋賀県 3.3%、三重県 1.4%、和歌山県 1.2%であり、近畿エリアからの入学者が占める割合は 69.8%であった。

このことから、本学科においても、多くが近畿エリアの府県から入学者があると考えられる。

また、2.2.1 中長期的な 18 歳人口についての分析の【兵庫県内の大学への進学者数の県内・県外割合】に示すとおり、兵庫県出身で県内に進学する学生数と、県外から流入する学生数は、同程度の進学者がいることから、新学科においては、経年で安定した進学者が見込まれる。



2.3 定員充足の状況

本学科の学生の主となる学問系統である工学分野のうちの機械工学分野として、既設組織の「工学部機械工学科」における過去3年間の入学定員の充足状況は、図表6に示すとおりである。工学部機械工学科においては、過去3年間の定員充足率については、いずれも100%を超えており、毎年定員を充足している。また、機械工学科の受験倍率は例年3倍程度あることから、新学科においても定員充足可能であると考えられる。

学科名	入学定員			入学者数			定員充足率		
	2021年	2022年	2023年	2021年	2022年	2023年	2021年	2022年	2023年
工学部機械工学科	103	103	103	104	103	106	1.01	1.00	1.03

図表6：神戸大学工学部機械工学科の入学定員の充足状況（直近3年間）

3 学生確保の見通し

3.1 競合校の状況分析

3.1.1 競合校の選定と医療創成工学科との比較分析、優位性

本学科の競合校は以下の条件により選定を行った。

- ① 国立大学であること
- ② 本学科の学びとの類似性がある学科・コースがあること
- ③ 学科・コースとして入試（学生募集）を実施していること

その結果、以下の3校を本学科の競合校として設定することとした。

- ① 【大分大学】 医学部：先進医療科学科・臨床医工学コース
- ② 【千葉大学】 工学部：総合工学科・医工学コース
- ③ 【東京農工大学】 工学部：生体医用システム工学科

本学科と競合校において「所属学部による教育の特色」、「カリキュラム」の2つの観点から比較を行った。

それぞれの教育の特色は以下のとおりである

① 大分大学医学部：先進医療科学科・臨床医工学コース

- ・ 最先端の医学・医療と多職種連携を理解し、理工学や医療マネジメントといった他領域の知識も学ぶとともに、診断に要な検査法や検査機器、治療に必要な手技や装置に関する知識や技術を修得することで、その分野をリードする医療者・研究者となるための力を身につける。
- ・ 医用機器学・人工臓器学などの医工学の先進領域に関する知識と最先端の生体機能代行装置の操作技術を修得する。
- ・ 先進領域の理解と総合知の獲得

臨床医工学コースは主として医工学を専門領域としながらも、学科独自の融合人材育成科目群（先進領域融合科目、国際力強化科目、未来創造キャリア・デザイン科目、医療マネジメント科目）の学習を通じて、医学・医療の先進的な知識と最先端の技術のみならず他領域の知識・技術をも習得し、イノベーションをこすために必要な「総合知」を身につける。

- ・ グローバルに活躍できる人材の育成

医学・医療の専門分野だけでなく、低学年から英語で理解・表現する能力を養って実践的なコミュニケーションの経験値を向上させ、国際的に活躍できる能力の修得を目指す。その延長線上として、希望者は長期海外研修、海外インターンシップに参加することも可能。

- ・ 研究マインドの醸成

2年後期から、将来の研究を担う融合人材を目指し、協調的な学修環境の中で研究チームの一員として問題解決能力を高め、幅広い領域に対する学修・研究意欲の向上につなげていくために、研究室配属を行う。実際に研究活動に従事している医師・研究者から早い時期に研究指導を受けることにより、研究することの重要性・醍醐味を知るとともに、研究倫理、研究的探究心（リサーチマインド）を育みます。各研究室の教員の指導のもとで各自テーマを設定し、身に付けた問題解決能力を活用して卒業研究へと繋げていく。

② 千葉大学工学部：総合工学科・医工学コース

- ・ 医工学に関連した情報、画像、電子、機械工学の技術体系を母体とし、これに加えて医学、看護学、福祉学を加味した学際的な学問体系を創生し、時代の要請に即した新しいタイプの技術者・研究者を育成する。
- ・ 40名程度の少人数教育。一人ひとりにきめの細かい指導を実施。
- ・ 他学部との連携：遍学単位制度、医学部・護学部・薬学部との合同実習
- ・ 専任医学系教員による教育指導、共同研究
- ・ 共用医療機器多数（Open MRI X線 CT 内視鏡、超音波診断装置、組織標本作製装置 など）
- ・ 医工学は、電子・情報・画像・機械工学などの技術体系に基盤を置いて構成される学際的学問分野。
- ・ 学科では、これら「電子」「情報」「機械」の3つの系を定め、それぞれの系における基礎的な科目について必修科目・重点科目として効率的に学習できる教育プログラムを構築している。学生は自分が習得したい系をひとつあるいは複数選択し、その系の履修計画を立てることができる。
- ・ 医工学は工学・医学の諸領域はもちろんのこと、理学、薬学・看護学等の幅広い分野が関与する学際的な学問。そのため、本コースの教育プログラムは、工学部の他コースはもとより、フロンティア医工学センター、医学部、看護学部、薬学部、理学部、文学部など、学内の様々な教育研究組織とも連携して実施。
- ・ また、医工学コースには医学部附属病院の医師である教員も所属しており、医療現場を身近に感じながら実践的な教育を受けることができる。

③ 東京農工大学工学部：生体医用システム工学科

- ・ 生体医用システム工学科は、医療にかかわる計測・診断技術の開発に必要な物理学や電子工学、生物学を融合した形で体系的に学ぶことができる学科。
- ・ これまでの学問分野に捉われない柔軟な発想のもとに、医療分野のニーズに応える工学技術の研究開発を行うための力が身に付く。
- ・ 低学年次では、数学、物理学、物学等に加え、医療機器や計測・診断技術のしくみにかかわる専門基礎科目について学びます。高学年次では、医療応用にかかわる医用フォトニクス、医用超音波工学、医用デバイス工学、医用メカトロニクス等について学びます。さらに、3年次後期の研究室体験配属、4年次の卒業論文を通して、企画設計力、究開発力、論理的発信力を身に付けることができる。
- ・ 現代医療における計測・診断技術に必要な物理学や電子情報工学等を融合した形で体系的に学ぶことで、医療にかかわる工学技術と生物学・医学とを総合的かつ深く理解する能力を有し、従来の学問体系に捉われない柔軟な発想のもとに革新的な生体医用工学的研究開発を行うことができる人材の育成を目的としている。
- ・ 物理系・電子情報系といった工学系の科目と、生物・医療系科目を同時に学ぶことができる、ユニークな学科。
- ・ 医療機器や医用システムを開発するために必要な知識を習得できる。
- ・ 臨床で活躍する医師や、医療に携わる技術者を招へいし、最先端の医療の動向を解説する「臨床医学概論」「臨床医学基礎」といった科目を設定している。
- ・ 医療応用を見据えた講義・演習・実験を経て、各研究室に配属されて卒業研究へつながっていく。

これら競合校とは、医工融合型の教育方法、教育内容など非常に類似性を有しているが、同じ医工融合型の教育であっても以下の点が大きく異なると考えられる。

①大分大学との大きな違いは、養成する人材が異なる点である。大分大学医学部先進医療科学科・臨床医工学コースの養成する人材は「新しいタイプの技術者・研究者を育成」することとされているのに対し、本学科は、医療機器開発に必要な知識に加え医療機器開発を題材として問題解決に必要な未来思考と基本的な素養を有し、自ら課題を設定し解決策を見出す能力を有する創造的開発人材を養成することとしている。また、大分大学先進医療科学科・臨床医工学コースでは、最先端の生体機能代行装置の操作技術を修得することとされているが、本学科では、技術の修得を目指しておらず、既存の常識にとらわれない新たな方法を発想できる力を養成することを目指している点で異なると考えられる。

②千葉大学及び③東京農工大学との大きな違いは、本学科は医学部に設置することとしているが、これらの学科は工学部に設置している点である。本学科においては、医学部に医工融合型の学科を設置することで、実際の現場での実習を体得しながら、医療従事者・医学部生との人的ネットワークの形成を通じて、医療機器開発の実践を行う際などに協力体制を築き、より医療現場のニーズを踏まえた適切な医療機器やシステムを創出する能力を養成可能となる仕組みを構築することを特色としているため、医学部の中に設置することとしており、千葉大学及び東京農工大学とは異なると考えられる。

本学科と競合校との相違点を挙げているが、いずれの学科・コースにおいて、それぞれの特徴を有しているため、どの学科が最も優れているという点の比較はできないと考えられる。本学科においては、本学科の養成する人材像や教育の特色を最大限活かせるための体系的な教育課程を編成した教育を実施することとしている。

3.1.2 競合校の入学志願動向等

本学科の競合校にあたる3大学（大分大学、千葉大学、東京農工大学）の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、定員充足率は以下のとおりである。

【大分大学医学部 先進医療学科臨床工学コース】

	学部名	学科/コース名	入学定員					入学者数					定員充足率(%)					
			2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	
大分大	医	先進医療科/臨床工学						15					15					100.0

【千葉大学工学部 総合工学科医工学コース】

大学名	学部名	学科/コース名	募集人員(一般選抜)					入学者数					定員充足率(%)				
			2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
千葉大	工	総合工/医工学	39	39	39	39	39	非公表	41	39	40	41	—	105.1	100.0	102.6	105.1

【東京農工大学工学部 生体医用システム工学科】

大学名	学部名	学科名	入学定員					入学者数					定員充足率(%)				
			2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
東京農工大	工	生体医用システム工	56	56	56	56	56	58	59	59	60	56	103.6	105.4	105.4	107.1	100.0

(各年度 進研アド調べ)

いずれの大学の過去3年間の受験倍率において平均2倍以上の値となっており、定員充足率についても過去3年間すべて100%を超えていることから、本学科においても定員を充足することが出来る見込みである。

また、以下のとおり兵庫県の国公立大学も経年で入学定員を充足しており、その観点からも本学科においての定員充足は十分に見込める。

【兵庫県：国公立大学の定員充足状況】

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	兵庫	104.12%	102.75%	104.38%

(大学改革支援・学位授与機構「大学基本情報」をもとに作成)

3.1.3 学生納付金等の金額設定の理由

授業料、入学料及び検定料は、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令（平成十六年文部科学省令第十六号）」に定められた標準額とする。

授業料	年額	535,800円
入学料		282,000円
検定料		17,000円

4 新設組織の定員設定の理由

本学では、神戸医療産業都市において神戸市や産業界とともに神戸未来医療構想（地方大学・地域産業創生交付金事業）（※人工島ポートアイランドにおいて約350の先端医療の研究機関、高度専門病院群、企業や大学が集積する日本最大のバイオメディカルクラスターを構築し、神戸大学や神戸地域の医療機器関係企業も参画して先端医療技術の研究開発を推進）に取り組んでおり、本学のデジタルバイオ&ライフサイエンスリサーチパーク構想の異分野共創研究教育グローバル拠点の一環として、医療機器開発におけるこれらの課題を解決するために2019年度に「未来医工学研究開発センター」を設置している。未来医工学研究センターでは、参画企業や共同研究先の企業において共用可能な設備・研究機器を設置し、医療機器等の容易なプロトタイプ機器の開発・製作が実施できる場を提供すると共に、デジタル医工創成学コースを設け、複数研究科（保健学研究科、医学研究科、工学研究科など）を横断した教育プログラムにより、医療現場の見学を通じたニーズ探索、医療機器に関連するものづくりやロボットハンド制御などを体験しながら、専門的知識と複眼的視座を養成する教育を展開している。

これらのデジタル医工創成学コースなどの教育の知見や自治体や産業界との連携を活かし、我が国初の医療機器開発に特化した医工融合型専攻として医療創成工学専攻を医学研究科に令和5年4月設置（入学定員：博士課程前期課程15名、博士課程後期課程8名）、これからのイノベーション創出を担う人材を育成している。

定員設定の考え方については、後述する学生確保に関するアンケート調査結果においては、本学科への入学希望者が575名と、本学科の教育・研究へのニーズが非常に高い結果となったが、本学科での医療機器開発を目指した実践的なカリキュラムや創造性教育といった、本学科が目指す自ら課題を設定し解決策を見出す能力を有する創造的開発人材を養成し、本学科の特徴を最大限活用するための教育・研究を実施するためには、少人数での教育・研究を実施する必要がある。このことから、医療機器開発のための高い教育の質を確保しつつ、実践的なカリキュラムを実施するために、入学定員を25名と設定した。

また、本学科では、高等専門学校生を主な対象とした編入学生を受け入れることとしている。工学等の専門知識を有する高等専門学校生を受け入れることによって、自らが高等専門学校時代に培った専門知識を活かして医療機器開発の実践を身につけることが可能となるとともに、既存の学生にとっては、医療機器開発において多様な者が関わりながら議論することで、自ら課題を設定し解決策を見出す能力を加速することにもつながり、医療機器開発の教育の質を高め、充実した人材を輩出することが可能になるためである。編入学定員については、本学科の学生の主となる学問系統である工学分野のうち、機械工学分野の既設組織である工学部機械工学科に編入する学生の近年の実績を見ると、毎年5名以上が合格し志願倍率も非常に高い状況である。また、本学の競合校の入学人数は、近年6～10名程度が入学している状況であることを踏まえ5名程度の

人材を受け入れることが、上記の趣旨及び規模から適正であるとする。

これらの実績・経験を有する本学において、学部段階から医療機器を題材とした教育研究を実施し医療機器開発をけん引する創造的開発人材の育成を行うため、新専攻・新学科の一貫した教育体制構築かつ患者目線での医療機器開発や医療の将来発展へより貢献可能な環境である医学部に新設組織を置くこととし、その入学定員を 25 名、3 年次編入学定員 5 名としている。

5 学生確保に関するアンケート調査

第三者機関である「株式会社進研アド」への委託による「神戸大学医学部 医療創成工学科（仮称）」設置に関するニーズ調査を実施した。【資料 1】

調査対象は、近畿、北陸エリアの高等学校で本学の理系既存学部・学科に、過去 5 年間の入学実績がある高等学校のうち 16 校を抽出し、学科開設予定年度である令和 7 年度に大学 1 年生となる、2023 年度現在の高校 2 年生を対象にアンケート調査を実施した。

調査期間は、2023 年 9 月 11 日から 2023 年 10 月 31 日までとし、調査方法は、事前に本学から各対象校へ調査への協力を依頼し、了解を得た後、実際に高等学校へ本学教員が赴き、高等学校教員への説明、もしくは生徒へ直接、本学科の説明を行った後、その場でアンケート調査を行う、あるいは後日第三者機関からアンケート調査用紙を送付し、本学科の概要をリーフレットで提示した上で、高等学校内でホームルーム等を利用して、高等学校教員による配付、回収を行った。調査内容については、本学科の特色についてそれぞれ説明し、それらの特色に対して「とても魅力を感じる」、「ある程度魅力を感じる」、「あまり魅力を感じない」、「まったく魅力を感じない」の選択肢から回答を選んでもらう方式とし、また本学科への受験意向、入学意向についても併せて調査を行った。

調査結果の回収状況は、対象とした 16 校（配布数 3,425）から、15 校 2,668 名の回答が得られ、回収率 77.9%であった。回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「国公立大学に進学」の割合が 98.1%で最も高い。次いで「私立大学に進学」が 16.9%と続く。国公立大学への進学志望者が多いことから、本学がターゲットとする対象生徒に調査を実施出来ていると考えられる。

調査結果によると、本学科の特色に対する魅力度（※¹）は、3 項目すべてで 8 割を超える。最も魅力度が高いのは、「A. 新しい医療機器などを創ることによって人に役立ち、社会に貢献できる人材を育成する。」88.0%であり、「とても魅力を感じる」と回答した人の割合も 40.1% で最も高い。次に魅力度が高いのは、「B. 医学と工学の集合知により医療機器などに関する医工学教育と研究開発を医療現場（医学部附属病院等）において行う。」84.3%、さらに「C. 課題解決型能動的学習*を積極的に取り入れ、イノベティブ（革新的）な発想ができ、創造的思考能力を持った世界に通用する人材を育成する。（*能動的学習：解決すべき課題に対して学生自身が調査および探究を行い、グループワークやディスカッションを通じて課題の解決に取り組む主体的・対話的学習法。）」83.8%と続く結果となった。

※¹ 魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

本学科への受験・入学意向については、本学科への受験意向者（※²）は 2,668 名中、645 名であり、受験意向者のうち、本学科に「入学したいと思う」と回答した入学意向者は、89.1%（575 名）であり、入学定員数 25 名を 23 倍上回る入学意向者数となった。

さらに、入学意向者の条件をさらに精緻に設定して、Q1 で「国公立大学に進学」を選択し、かつ、Q2 で「医工学・医用工学」に興味があると回答した、本学科の入学意向者について分析したところ、入学意向は 61.9%（315 名中、195 名）で、ターゲットの条件をより精緻に限定しても、予定している入学定員数 25 名を大きく上回る入学意向者がみられた。

※² 受験意向者＝「受験したいと思う」「できれば受験してみたいと思う」のいずれかを回答した人の合計値

なお、今回の調査は、近畿・北陸エリアの 16 校にしか実施していない。そのことを考慮すると、実際は上記をさらに上回る入学意向者数が見込まれる。

以上のことから、本学科においては、十分な志願者数を確保し、定員充足は可能であると考えられる。

2章 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

6 学生の確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

6.1 既設組織における取組とその目標

本学科の学生の主となる学問系統である工学分野の既設学部には工学部がある。工学部では、例年8月に対面式のオープンキャンパスを開催し、各学科の模擬講義や学科紹介などを実施している。また、それぞれの模擬講義などについて、動画コンテンツとしてホームページに公開するなどの工夫を行い、より多くの学生が学部や学科の情報を収集できるような取り組みを行っている。対面式のオープンキャンパスにおいては、2023年度は1,520人の定員に対し、4,473人の申し込みがあり、抽選の結果1,669人を当選とし、当日は951名の高校生が参加した実績がある。

さらに、工学部のホームページにおいて、Webパンフレットやリーフレットの公開や、受験生応援サイトとして受験生に向けた特設ページも開設し、「特色」、「学科紹介」、「進路先」、「入試情報」の情報を発信し、学生の確保に取り組んでいる。

新学科においては、高校へのニーズ調査を実施する際に、いくつかの高校へ教員が訪問し、新学科設置時の入学対象者となる高校2年生に対して、学科の説明や模擬講義などを実施してPR活動を行った。本学は内閣府の地方大学・地域産業創生交付金事業に採択されており、神戸市と連携を行い、医療機器の研究開発や医工連携人材の育成を行っていることから、医療機器におけるイベントやPRの場を活用し、本学科および専攻のPR活動を積極的に実施している。2024年度においても高校への訪問やこれらのイベントなどの活動を継続し、学生募集のための積極的なPR活動を実施することとしている。

6.2 新設組織における取組とその目標

本学では、学生確保のため、以下の取り組みを推進している。

- オープンキャンパス
令和6年度のオープンキャンパスにおいて、進路相談説明会を実施する予定であり、学生の確保に努める。
- ホームページ
本学科の特設ホームページを開設し、随時コンテンツの充実、更新を行っている。コンテンツについては、以下の戦略の元、設置している。
 - ・ PR動画：ホームページを訪れた人が、本学科について興味を持ってもらえるよう、インパクトがあり、ストーリー性のある動画を作成し、学生の確保に努めている。
 - ・ 本学科説明動画：「医工学」分野は社会的にも認知が低い学問分野のため、医工学や医療機器、本学科について、初見の人でもわかるような、パワーポイントを用いた説明動画を作成し、公開している。
 - ・ 講義動画：株式会社フロムページが提供している、講義動画配信サービス「夢ナビ」を利用し、本学科着任予定の教員4名が専門分野の講義を行い、公開する。パンフレットでは説明しきれない、本学科教員のそれぞれの学問分野を細かく説明し、高校生が学問の観点から本学科に興味を持ってもらい、学生を確保するのが狙い。
 - ・ インタビュー：高校生や保護者、高校進路指導教員への本学科卒業後のキャリアパスをイメージしやすいように、医療機器メーカーや工業系企業の代表取締役、臨床工学技士などの医療機器に精通する人々へ本学科設置に関するインタビューを行い、自身の経験を踏まえながら各職業の視点から本学科の社会的需要について語っていただき、ホームページに公開するもの。これにより、本学科への社会的ニーズがあることを高校生や保護者、進路指導教員へ明示することが可能となり、高校生のキャリアパスの不安払拭につなげることで、学生の確保が期待できる。

- 高校訪問
学生確保に関するアンケート調査を実施するにあたり、実祭に本学科に着任予定の教員が高校に赴き、理系大学進学を目指す生徒や進路指導の教員への本学科設置についての説明を行った。今後も引き続き高等学校等へ赴き、本学科の説明を行い広報活動を行う予定である。直接教員が訪問し、説明、質疑応答を行うことで生徒の本学科への期待や疑問、不安が払拭され、学生の確保が期待できる。
- 進路相談
令和5年11月に行われた、六甲祭（文化祭）において、進路相談会を開催し、本学科についての説明講演会、進路相談を行った。その他に、河合塾が開催している「2023年度大学ガイダンス」などにも本学入試課が参加し、本学科の設置についての説明を行ったり、本学科のパンフレットを設置し、記載されているQRコードから本学科HPへ飛べるように誘導したりするなど、学内、学外問わず、進路相談会などでも積極的に広報活動を行い、学生の確保に努めている。
- SNS
Instagram、X、FacebookなどのSNSでも本学科や、大学院（医療創成工学専攻）についての情報を発信しており、随時更新し、学生の確保に努めている。

3章 新設組織で養成する人材の社会的要請や人材需要の動向

7 養成する人材の全国的、地域的、社会的動向

我が国の医療機器開発における課題として、厚生労働省の「国民が受ける医療の質の向上のための医療機器の研究開発及び普及の促進に関する基本計画」(令和4年5月31日)によると、日本における医療機器の研究開発の促進においては、「臨床ニーズを深く掘り下げ、応用可能な技術の要件を定める能力」と「出口戦略を策定し、計画全体を立案・管理する能力」を有する人材の育成・確保が特に大きな課題であるとされており、「医療機器の研究開発の中心地としての我が国の地位の確立」に向けて、他国と比較しても魅力的な人材を育成・確保していくことが必要であり、世界的にもトップレベルの人材を目標に各人材の育成に取り組むことが重要であるとされている。また、経済産業省においては、「医療機器産業を取り巻く課題について第3回WG資料」(2023年6月22日)においても、医療機器分野の更なる成長に向けては、臨床開発、薬事・保険戦略、製造、ITなど様々なスキルが必要であり、多様な人材育成が不可欠であるとされており、医療現場に求められている課題解決に対し、産業(工学)側で新たな技術を開発したり、研究者や企業の持つ既存の技術を使ったりして解決する手法、つまり「医工連携」が重要で、医工連携の取り組みをさらに拡充・加速させるためには、多様な形で医療関係者・アカデミアからの協力を得ることが必要であるとされている。

関西の3府県(京都府・大阪府・兵庫県)、3政令市(京都市・大阪市・神戸市)が国際戦略総合特別区域制度を活用した「関西イノベーション国際戦略総合特区」に国から地域の指定を受けており、神戸市は1998年から「神戸医療産業都市」を推進し、関西イノベーション国際戦略総合特区の「医療産業都市地区」として指定されている。「神戸医療産業都市」では、最先端の研究機関や高度専門病院、約370の医療関連企業や大学が集積し、「医薬品」「医療機器」「再生医療」を重点分野として世界を変える革新的な医療技術の開発が進められている。革新的な医療機器開発のためには、医療現場のニーズを把握し、機器のプロトタイプ開発から有効性・安全性などの根拠にもとづく評価、薬事審査・承認対応といった多岐にわたるプロセスを理解した上で、実用化を推進できる人材が必要であり、その人材育成が重要であるとされている。神戸医療産業都市では、産学官医が連携し、医療従事者のニーズと企業・研究者のシーズをつなぎ、グローバル展開までを橋渡しする体制を構築するとともに、神戸発の優れた医療技術のグローバル展開、海外医療従事者への手術手技のトレーニング、海外患者への先端治療の提供、グローバル規模で影響力のある論文発表、国際標準でメディカルイノベーションを創出できる人材の輩出等により、神戸医療産業都市の国際貢献にも寄与するとされている。

本学は、2014年度から5年間実施した国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)「国産医療機器創出促進基盤整備等事業」に引き続き、2019年度より開始された「次世代医療機器連携拠点整備等事業」の拠点として活動し“日本型エコシステム”を確立すべく4つの取組み(日本型エコシステムの構築、人材育成プログラムの開発と実践、医療機器開発の推進、産学連携ネットワーク構築)を実践し、3つの機能(アップスキリング教育・開発支援の機能、開発実践の機能、大学院教育の機能：大学院医学研究科「医療創成工学専攻(2023年度～)」)を合わせた学内横断協働体制により医療機器開発と人材育成を推進している。さらに、臨床現場として医学部附属病院、リサーチホスピタルとして国際がん医療・研究センター(ICCRC)を、非臨床大型動物試験の場として統合型医療機器研究開発・創出拠点(MeDIP)を活用することで、強固な医療機器開発基盤を構築している。

これらの医療機器産業における課題や重要であるとされている国からの提言や社会的動向、神戸医療産業都市での取り組みなど医療機器開発に関する人材養成の需要は高く、本学医学研究科に医療創成工学専攻、医学部に医療創成工学科を設置し、医療機器開発に必要な知識に加え医療機器開発を題材として問題解決に必要な未来思考と基本的な素養を有し、

自ら課題を設定し解決策を見出す能力を有する創造的開発人材を養成することで、医療機器開発において、世界最高水準の研究・教育体制を構築することを目指している。

さらには今後の労働需要の変化の観点からも、経済産業省「未来人材ビジョン」(2020年5月)によると、AIやロボットで代替しやすい職種では雇用が減少するが、代替しづらい職種や、新たな技術開発を担う職種では雇用が増加する。全労働者数に占める職種の割合の変化率(2020年～2050年)では、専門的・技術的職業従事者は19%増加する。また、各産業の割合の変化率では、「医療・福祉」が32%で最も増加しているとされている。このことから、本学科で養成された人材の社会的需要は非常に大きいと考えられる。

8 人材需要に関するアンケート調査等

本学科卒業生の主な就職先として考えられる企業の具体的なニーズを把握するため、第三者機関である「株式会社進研アド」への委託による「神戸大学『医学部 医療創成工学科』(仮称)に関するアンケート」を実施した。【資料2】

調査対象は、医療機器に関係する全国の企業全250社とした。調査期間は、2023年10月11日から2023年11月6日までとし、調査対象とした企業へ、第三者機関からの郵送による調査票の送付及び回収を行った。

調査結果の回収状況は、対象とした250企業のうち49企業から回答が得られ、回収率は19.6%であった。

回答のあった49企業に本学科の魅力度について、「A. 新しい医療機器などを創ることによって人に役立ち、社会に貢献できる人材を育成する。」、「B. 医学と工学の集合知により医療機器などに関する医工学教育と研究開発を医療現場(医学部附属病院等)において行う」、「C. 課題解決型能動的学習を積極的に取り入れ、イノベーティブ(革新的)な発想ができ、創造的思考能力を持った世界に通用する人材を育成する。」の3つを聞いたところ、「A」は100%、「B」は87.8%、「C」は95.9%の企業から魅力があるとの回答を得られ、本学科の学びに関する魅力度は社会的に見ても高いと判断できる。

また、採用意向について、回答のあった49企業のうち「採用したいと思う」と回答した企業は42企業で、採用想定人数については57名程度という結果となった。定員25名の学生の全員が就職を選択した場合でも、採用想定人数は2倍以上の値を示す結果となった。

以上のアンケート結果から、新学科の設置は社会的な人材需要の動向を踏まえたものであり、就職についても十分見込めると考える。

神戸大学医学部 医療創成工学科
学生の確保の見通し等を記載した書類
資料目次

資料1	神戸大学『医学部 医療創成工学科』（仮称）設置に関する ニーズ調査結果報告書【高校生対象調査】	2
資料2	神戸大学『医学部 医療創成工学科』（仮称）設置に関する ニーズ調査結果報告書【企業対象調査】	2 1

神戸大学
「医学部 医療創成工学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和6年1月
株式会社 進研アド

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2025年4月開設予定の神戸大学「医学部 医療創成工学科」(仮称)新設構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校2年生
調査エリア		石川県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県
調査方法		高校留置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校数)	3,425名(16校)
	有効回収数 (回収校数)	2,668名(15校) 有効回収率:77.9%
調査時期		2023年9月11日(月)～2023年10月31日(火)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

高校生対象調査
<ul style="list-style-type: none">・性別・高校種別・高校所在地・所属クラス・高校卒業後の希望進路・興味のある学問系統・神戸大学「医学部 医療創成工学科」の特色に対する魅力度・神戸大学「医学部 医療創成工学科」への受験意向・神戸大学「医学部 医療創成工学科」への入学意向・神戸大学「医学部 医療創成工学科」に対する意見(自由回答)

高校生対象 調査結果まとめ



高校生対象 調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、神戸大学「医学部 医療創成工学科」に対する需要を確認するための調査として設計。神戸大学の主な学生募集エリアである石川県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県に所在する高校の高校2年生に調査を実施し、2,668名から回答を得た。

- 回答者の性別は、「男性」が61.7%、「女性」が37.5%である。
- 回答者の在籍高校種別は「公立」が72.0%、「私立」が28.0%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、神戸大学の所在地である「兵庫県」が52.8%で最も多い。次いで「大阪府」が19.1%、「滋賀県」が9.1%である。
- 回答者の所属クラスは「理系クラス(理系コース)」が96.2%を占め、最も多い。次いで「コース選択はない」が0.6%と続く。

高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「国公立大学に進学」の割合が98.1%で最も高い。次いで「私立大学に進学」が16.9%と続く。国公立大学への進学志望者が多いことから、神戸大学がターゲットとする対象に調査を実施出来ていると考えられる。
- 回答者の興味のある学問系統を複数回答で聴取したところ、「工学(医工学・医用工学を除く)」が49.6%で最も高い。次いで「理学(数学、物理学、化学など)」が31.5%、「医学(医工学・医用工学を除く)」が26.8%と続く。「医学部 医療創成工学科」の学びと関連する「医工学・医用工学」は11.8%である。

高校生対象 調査結果まとめ

神戸大学「医学部 医療創成工学科」の特色に対する魅力度

- 神戸大学「医学部 医療創成工学科」の特色に対する魅力度(※)は、3項目すべてで8割を超える。
- 最も魅力度が高いのは、「A. 新しい医療機器などを創ることによって人に役立ち、社会に貢献できる人材を育成する。」(88.0%)であり、「とても魅力を感じる」と回答した人の割合も40.1%で最も高い。

次に魅力度が高いのは、「B. 医学と工学の集合知により医療機器などに関する医工学教育と研究開発を医療現場(医学部附属病院等)において行う。」(84.3%)、さらに「C. 課題解決型能動的学習*を積極的に取り入れ、イノベーティブ(革新的)な発想ができ、創造的思考能力を持った世界に通用する人材を育成する。(※能動的学習:解決すべき課題に対して学生自身が調査および探究を行い、グループワークやディスカッションを通じて課題の解決に取り組む主体的・対話的学習法。)」(83.8%)と続く。

※魅力度=「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

高校生対象 調査結果まとめ

神戸大学「医学部 医療創成工学科」への受験意向・入学意向

- 神戸大学「医学部 医療創成工学科」を「受験してみたいと思う」と答えた人は5.5% (2,668名中、**147名**)、「できれば受験してみたいと思う」と答えた人は18.7% (2,668名中、**498名**)である。
- 神戸大学「医学部 医療創成工学科」を「受験してみたいと思う」「できれば受験してみたいと思う」のいずれかを答えた645名のうち、神戸大学「医学部 医療創成工学科」に「入学したいと思う」と回答した人は、89.1% (**575名**)である。

神戸大学「医学部 医療創成工学科」への入学意向者数

※ここからは、神戸大学「医学部 医療創成工学科」に対して、Q4で「受験してみたいと思う」「できれば受験してみたいと思う」のいずれかを回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を神戸大学「医学部 医療創成工学科」の入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向は21.6% (**575名**)で、予定している入学定員数25名を大きく上回る入学意向者がみられた。

<属性別>

◇性別

- 「男性」の回答者の入学意向は22.7% (1,646名中、**373名**)、「女性」の回答者の入学意向は19.6% (1,000名中、**196名**)と、いずれも予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。

◇高校所在地別

- 神戸大学の所在地である「兵庫県」の高校在籍者からの入学意向は23.3% (1,409名中、**329名**)と、予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。「大阪府」の高校在籍者からの入学意向は25.1% (510名中、**128名**)と、入学意向者数は兵庫県に次いで多い。

高校生対象 調査結果まとめ

◇所属クラス別

- 「理系クラス(理系コース)」に所属している回答者の入学意向は21.6%(2,566名中、**554名**)と、予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- 神戸大学を受験・入学する可能性が高い「国公立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は21.6%(2,617名中、**564名**)と、予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。

◇興味のある学問系統別

- 神戸大学「医学部 医療創成工学科」の学びと関連する「医工学・医用工学」に興味がある回答者の入学意向は61.9%(315名中、**195名**)と、予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。また、関連性の高い「工学(医工学・医用工学を除く)」に興味がある回答者の入学意向は22.6%(1,324名中、**299名**)、「医学(医工学・医用工学を除く)」に興味がある回答者の入学意向は29.4%(715名中、**210名**)と、いずれも予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。

◇神戸大学「医学部 医療創成工学科」の特色に対する魅力度別

- 神戸大学「医学部 医療創成工学科」の特色に魅力を感じている回答者の入学意向は、いずれの特色も20%以上であり、いずれも予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

さらに精緻な条件下での、神戸大学「医学部 医療創成工学科」への入学意向者数

※入学意向者の条件をさらに精緻に設定して、Q1で「国公立大学に進学」を選択し、かつ、Q2で「医工学・医用工学」に興味があると回答した、神戸大学「医学部 医療創成工学科」の入学意向者について分析する。

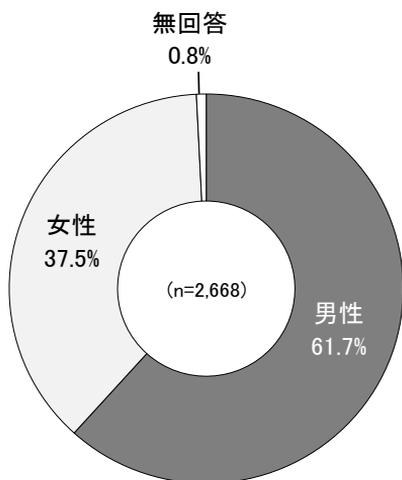
- 回答者全体における精緻な条件下での入学意向は61.9% (315名中、**195名**)で、ターゲットの条件をより精緻に限定しても、予定している入学定員数25名を大きく上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果

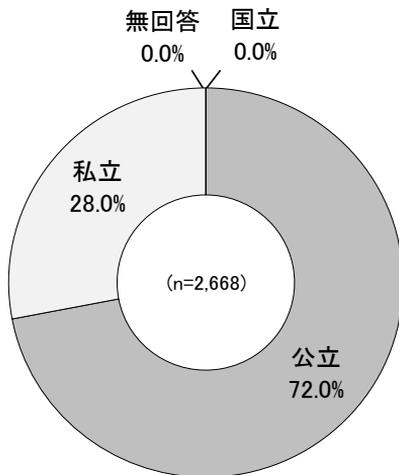


回答者の属性(性別/高校種別/高校所在地/所属クラス)

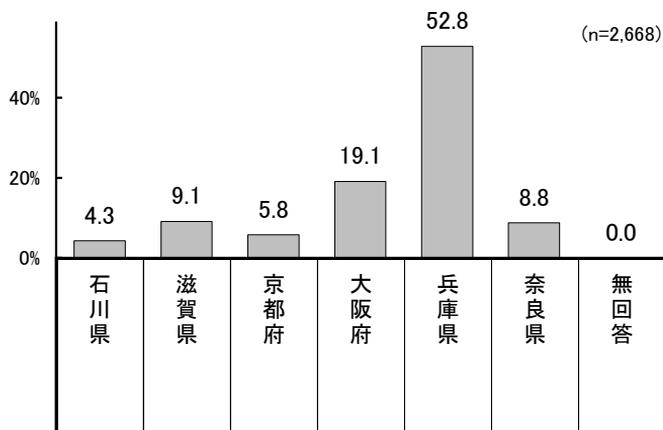
■性別



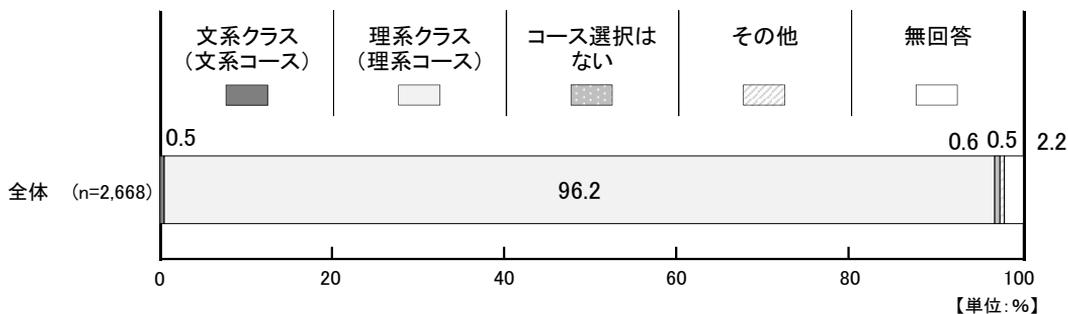
■高校種別



■高校所在地



■所属クラス

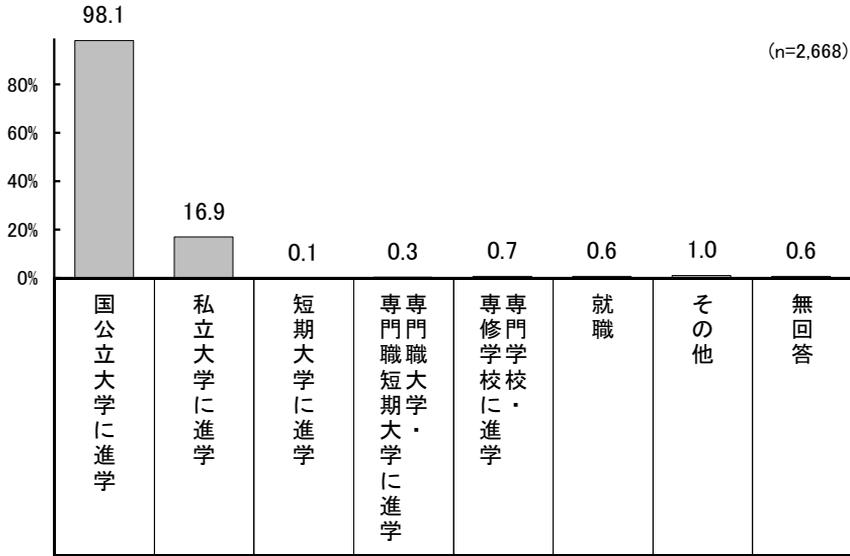


高校卒業後の希望進路／興味のある学問系統

■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。

以下の項目のうち、現在検討している(希望している)進路すべてに○をつけてください。(いくつでも)

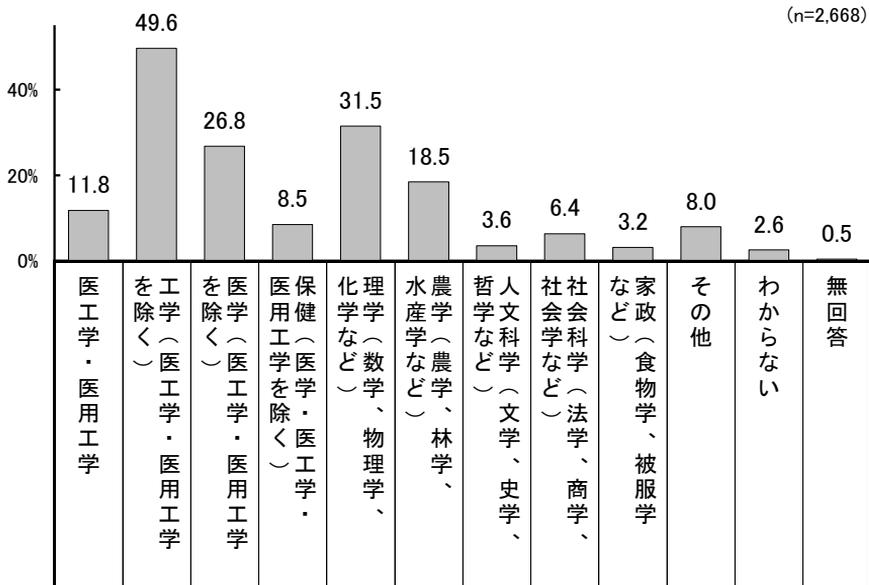


■興味のある学問系統

Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。

以下の項目から、興味のある学問系統の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

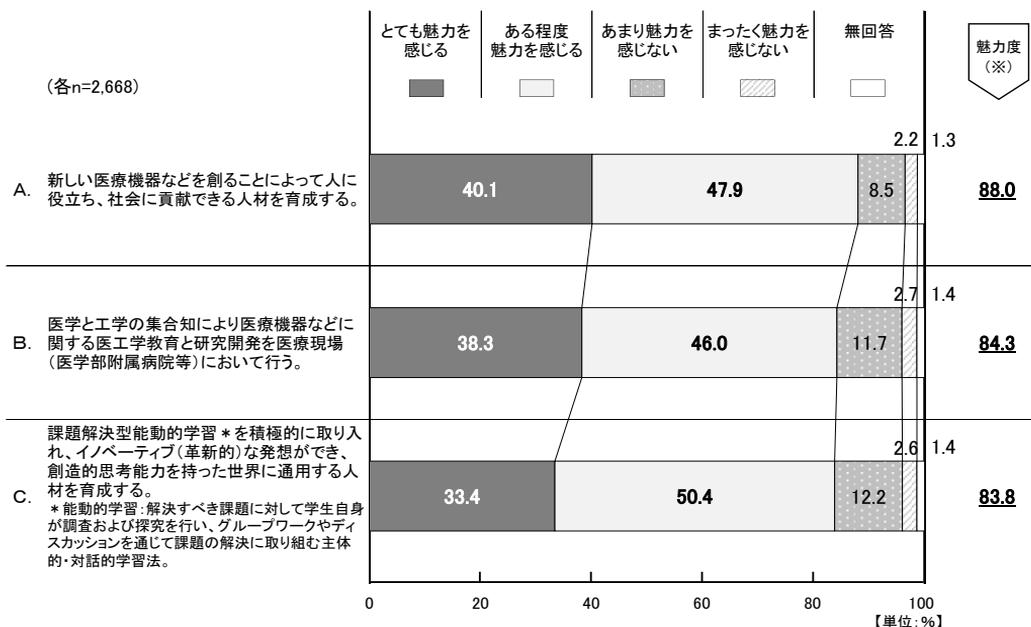
(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)



神戸大学「医学部 医療創成工学科」の特色に対する魅力度

■神戸大学「医学部 医療創成工学科」の特色に対する魅力度

Q3. 神戸大学「医学部 医療創成工学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



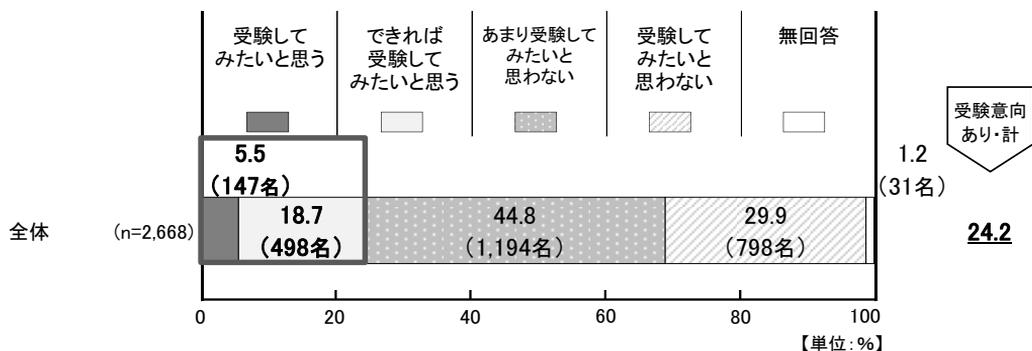
※魅力度=「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

神戸大学「医学部 医療創成工学科」への受験意向／ 入学意向／受験意向別入学意向

■神戸大学「医学部 医療創成工学科」への受験意向

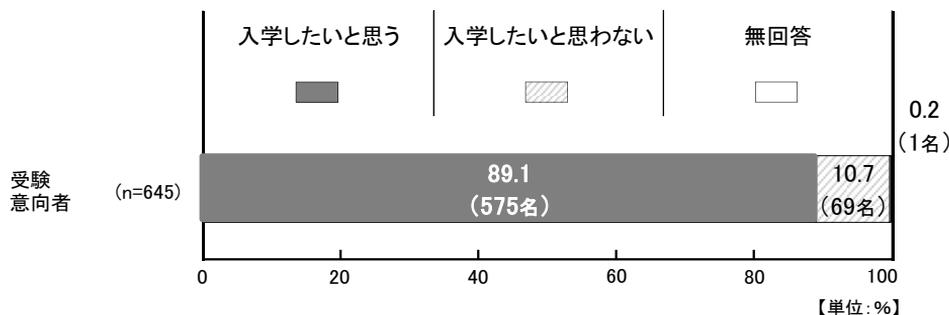
Q4. あなたは、神戸大学「医学部 医療創成工学科」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験してみたいと思う」「できれば受験してみたいと思う」
のいずれかを答えた645名のみ抽出

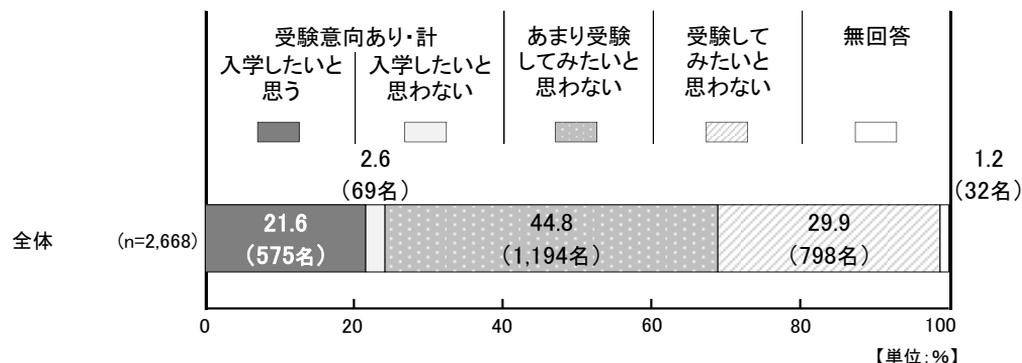
■神戸大学「医学部 医療創成工学科」への入学意向

Q5. あなたは、神戸大学「医学部 医療創成工学科」(仮称、設置構想中)に合格したら、医学部 医療創成工学科に
入学したいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験意向(Q4)」と「入学意向(Q5)」を
かけあわせて集計(母数は全回答者)

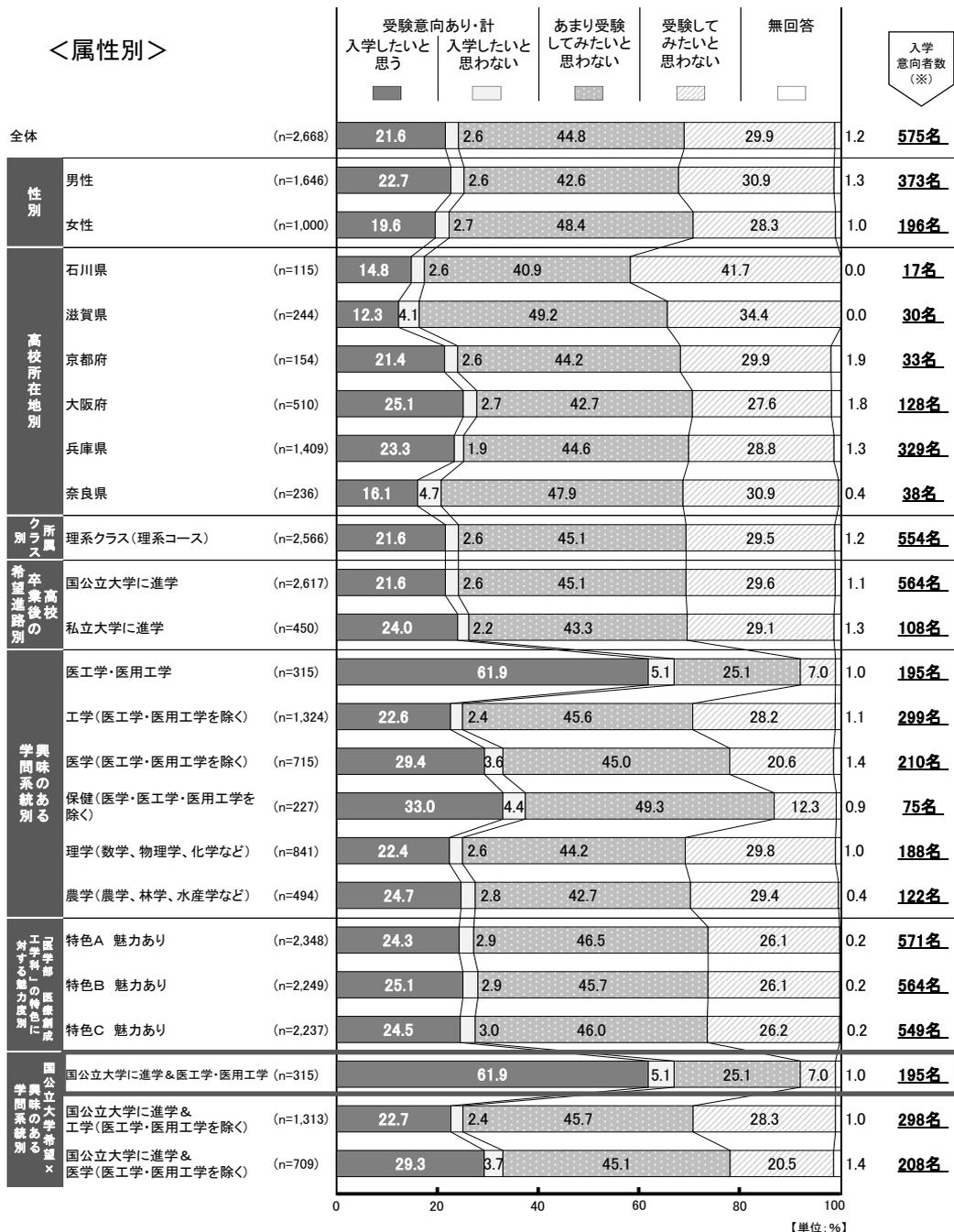
■神戸大学「医学部 医療創成工学科」への受験意向別入学意向



神戸大学「医学部 医療創成工学科」への受験意向別 入学意向<属性別>

■神戸大学「医学部 医療創成工学科」への受験意向別入学意向<属性別>

※神戸大学「医学部 医療創成工学科」に対して、Q4で「受験してみたいと思う」「できれば受験してみたいと思う」のいずれかを回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を神戸大学「医学部 医療創成工学科」の入学意向者と定義する。



※入学意向者数=「受験してみたいと思う」「できれば受験してみたいと思う」のいずれかを、かつ「入学したいと思う」と回答した人の人数

卷末資料 調查票



調査票

◆神戸大学「医学部 医療創成工学科」(仮称、設置構想中)についてお聞きします。

神戸大学では、現在高校2年生のみなさんが大学生となる2025年(令和7年)4月に、新しく「医学部 医療創成工学科」(仮称)を設置することを構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

Q3 神戸大学「医学部 医療創成工学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
例.	○○である。	➊	➋	➌	➍
A.	新しい医療機器などを創ることによって人に役立ち、社会に貢献できる人材を育成する。	➊	➋	➌	➍
B.	医学と工学の集合知により医療機器などに関する医工学教育と研究開発を医療現場(医学部附属病院等)において行う。	➊	➋	➌	➍
C.	課題解決型能動的学習*を積極的に取り入れ、イノベティブ(革新的)な発想ができ、創造的思考能力を持った世界に通用する人材を育成する。	➊	➋	➌	➍

* 能動的学習: 解決すべき課題に対して学生自身が調査および探究を行い、グループワークやディスカッションを通じて課題の解決に取り組む主体的・対話的学習法。

※ 以降の設問で回答した内容が、本学への受験や入学に影響することはありません。

Q4 あなたは、神戸大学「医学部 医療創成工学科」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

- ➊ 受験してみたいと思う ➋ あまり受験してみたいと思わない
➌ できれば受験してみたいと思う ➍ 受験してみたいと思わない

Q5 あなたは、神戸大学「医学部 医療創成工学科」(仮称、設置構想中)に合格したら、医学部 医療創成工学科に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

- ➊ 入学したいと思う ➋ 入学したいと思わない

Q6 あなたは、神戸大学「医学部 医療創成工学科」(仮称、設置構想中)について、どのように思われますか。また、どのような教育を期待しますか。ご意見をお聞かせください。

*** 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。***

神戸大学医学部医療創成工学科概要

- 入学定員 25名
- 学位の名称 学士 (医工学)
- 学生納付金 ※変更の可能性あり

授業料(年額)	入学料	検定料
535,800円	282,000円	17,000円

取得可能な資格 (予定)

- 臨床工学技士の受験資格

類似大学 (学部・学科)

- 大分大学 医学部：先進医療科学科・臨床医工学コース
- 千葉大学 工学部：総合工学科・医工学コース
- 東京農工大学 工学部：生体医用システム工学科
- 公立小松大学 保健医療学部：臨床工学科



患者案内スマートロボット『AIREC』



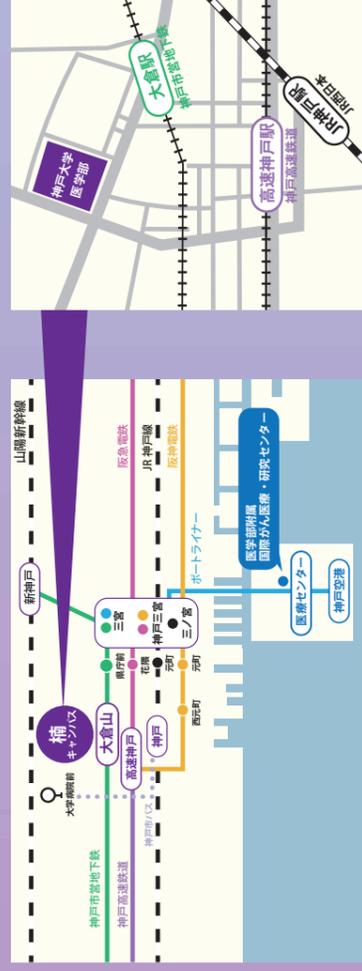
医療機器開発を通じた
創造的開発人材を養成

2025年4月 神戸大学医学部に 医療創成工学科を新設

※設置申請予定 (内容は予定であり変更となる場合があります。)

神戸大学医学部医療創成工学科事務室
〒650-0017 神戸市中央区楠町7丁目5-1 TEL：078-382-5342 Mail：ikou@med.kobe-u.ac.jp

お問い合わせ



アクセス

- 電車 神戸市営地下鉄「大倉山」駅下車徒歩約5分 JR「神戸」駅下車徒歩約15分 神戸高速鉄道「高速神戸」駅下車徒歩約15分
- バス JR神戸駅前より神戸市バス9系統、110系統もしくは112系統に乗り約5分「大病院前」バス停下車
- タクシー JR神戸駅前より約5分 JR新神戸駅前より約10分 神戸空港より約25分

あなたが創る未来の医療

長寿社会を迎えた日本において健康に対する国民の関心は高く、安心して健康的な生活を送れるよう、患者に優しい先進的な医療の提供が求められています。医療の進歩には新たな医薬品や医療機器の開発は不可欠ですが、国内の治療用医療機器の大半が欧米製であり、先進的な医療を国民がいち早く受けることが出来ない、ハンデミックの状況下で必要な医療機器の不足、高額な海外製品により医療費が増加するなどの弊害が生じている現状があります。このような状況を打破するために、医療現場で求められる医療機器を自国で開発することは社会的要請事項であり、そのための人材の育成が急務です。

神戸大学は、医学と工学の基礎知識を併せ持ち、医療現場で自ら問題（ニーズ）を見つけ、その解決に向けたものづくりができる創造的開発人材の育成を行うために、医学部に医工融合型の教育組織として「医療創成工学科」を2025年度に設置する予定です。

本学科では、病院で使用される医療機器の開発を実践教育の題材としながら、高齢者の日常生活を助けるための介護・福祉機器や働き世代の健康維持のためのヘルスケア機器などの領域も視野に入れ、健康・医療に関連した幅広い領域で活躍できる人材を育成します。さらには、臨床工学士の受験資格も取得可能なカリキュラムを計画中で、将来医療従事者として医療現場で医師や患者と接しながら医療機器開発に携わることも可能です。



スマート治療室



hinotori™サージカルロボットシステム

養成する
人物像

医学と工学の基本的な素養を有し、自ら課題を設定し解決策を見出す能力を持つ、
未来思考を兼ね備えた創造的開発人材を養成する

求める学生像

- 生命科学・医学や物理学・工学に興味を持ち、好奇心と探求心を併せ持った学習意欲が旺盛な学生
- 大きな目標を考えられる自由な発想と質の高い情報と質の高い批判や討論ができる学生
- コミュニケーション能力と協調性があり、問題解決においては独創性と指導力を発揮できる学生
- 国際的に活躍する意欲を持った学生

医学部医療創成工学科の特色

医学的知識および工学やものづくりの基礎を学んだ上で、社会や医療現場のニーズに対して最も適切な医療機器やヘルスケア機器を創出する能力を養います

point1
医学部の学科ならではの
医療現場での実習

point2
医療機器開発プロセスの
体系的な教育

point3
能動的学習と
実践的な教育

point4
集合知による
課題解決法の教育

医療機器開発プロセス



カリキュラム



卒業後のキャリアパス

- 卒業後は医療機器の実用化を担う人材として、右下に示したような多様な活躍の場があります
- 大学院への進学によって、さらに医療機器開発の能力を高めることができます



進学

医工融合分野において、学部から大学院に連続する一貫的な教育！！
神戸大学大学院医学研究科 医療創成工学専攻 2023 年度開設



詳細はこちら

神戸大学
「医学部 医療創成工学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【企業対象調査】

令和6年2月
株式会社 進研アド

企業対象 調査概要

1. 調査目的

2025年4月開設予定の神戸大学「医学部 医療創成工学科」(仮称)新設構想に関して、企業からの採用ニーズを把握する。

2. 調査概要

		企業対象調査
調査対象		企業の採用担当者
調査エリア		北海道、青森県、岩手県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、岡山県、広島県、山口県、香川県、愛媛県、福岡県、長崎県、大分県、鹿児島県、沖縄県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	250企業
	回収数(回収率)	49企業(19.6%)
調査時期		2023年10月11日(水)～2023年11月6日(月)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

企業対象調査
<ul style="list-style-type: none">・人事採用への関与度・本社所在地・業種・従業員数・正規社員の平均採用人数・本年度の採用予定数・採用したい学問分野・神戸大学「医学部 医療創成工学科」の特色に対する魅力度・神戸大学「医学部 医療創成工学科」の社会的必要性・神戸大学「医学部 医療創成工学科」卒業生に対する採用意向・神戸大学「医学部 医療創成工学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数

企業対象 調査結果まとめ



企業対象 調査結果まとめ

回答企業(回答者)の属性

※本調査は、神戸大学「医学部 医療創成工学科」(仮称)に対する人材需要を確認するための調査として設計。神戸大学「医学部 医療創成工学科」の卒業生就職先として想定される企業の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、49企業から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決定権があり、選考にかかわっている」人は44.9%、「採用の決定権はないが、選考にかかわっている」人が49.0%と、採用や選考にかかわっている人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。
- 回答企業の本社所在地は、神戸大学の所在地である「兵庫県」が24.5%で最も多い。次いで「東京都」が20.4%、「大阪府」が18.4%である。
- 回答企業の業種としては「製造業」が71.4%で最も多い。次いで「医療・福祉」が14.3%、「卸売・小売業」が10.2%である。
- 回答企業の従業員数(正規社員)は、「50名未満」が34.7%で最も多い。次いで「100名～500名未満」が24.5%、「1,000名～5,000名未満」が18.4%である。

回答企業の採用状況(過去3か年)／本年度の採用予定数／採用したい学問分野

- 回答企業の平均的な正規社員の採用人数は、「1名～5名未満」が38.8%で最も多い。次いで「10名～20名未満」が16.3%、「5名～10名未満」が12.2%である。毎年、正規社員を採用している企業がほとんどである。
- 回答企業の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が53.1%で最も多い。次いで「増やす」が28.6%と続く。「未定」は16.3%あるものの、回答企業の多くで昨年と同等かそれ以上の採用が予定されている様子である。
- 回答企業の採用したい学問分野を複数回答で聴取したところ、「工学(医工学・医用工学を除く)」の割合が67.3%で最も高い。次いで「医学部 医療創成工学科」の学びに関連のある「医工学・医用工学」が63.3%と続く。

企業対象 調査結果まとめ

神戸大学「医学部 医療創成工学科」の特色に対する魅力度

- 神戸大学「医学部 医療創成工学科」の特色に対する魅力度(※)は、3項目すべてで8割を超える。
- 最も魅力度が高いのは、「A. 新しい医療機器などを創ることによって人に役立ち、社会に貢献できる人材を育成する。」(100.0%)である。

次に魅力度が高いのは、「C. 課題解決型能動的学習*を積極的に取り入れ、イノベティブ(革新的)な発想ができ、創造的思考能力を持った世界に通用する人材を育成する。(※能動的学習:解決すべき課題に対して学生自身が調査および探究を行い、グループワークやディスカッションを通じて課題の解決に取り組む主体的・対話的学習法。)」(95.9%)、さらに「B. 医学と工学の集合知により医療機器などに関する医工学教育と研究開発を医療現場(医学部附属病院等)において行う。」(87.8%)と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の合計値

企業対象 調査結果まとめ

神戸大学「医学部 医療創成工学科」の社会的必要性

- 神戸大学「医学部 医療創成工学科」の社会的必要性については、95.9% (49企業中、**47企業**)が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

神戸大学「医学部 医療創成工学科」卒業生に対する採用意向・ 毎年の採用想定人数

- 神戸大学「医学部 医療創成工学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、85.7% (49企業中、**42企業**)である。
- 神戸大学「医学部 医療創成工学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた42企業へ、神戸大学「医学部 医療創成工学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**57名**で、予定している入学定員数25名を2倍以上上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

< 属性別 >

◇ 本社所在地別

- 「近畿」エリアに本社がある企業からの採用意向は、84.0% (25企業中、**21企業**)。採用想定人数の合計は**27名**で、予定している入学定員数を上回っている。

◇ 業種別

- 業種が「製造業」である企業からの採用意向は、82.9% (35企業中、**29企業**)。採用想定人数の合計は**39名**で、予定している入学定員数を上回っている。

企業対象 調査結果まとめ

◇従業員数別

- 従業員数が「50名未満」から「500名以上」まで従業員数にかかわらず、一定の採用意向がみられる。

◇本年度の採用予定数別

- 本年度の採用予定数を「増やす」「昨年度並み」と回答した企業からは、一定の採用意向がみられる。とくに、「昨年度並み」と回答した企業の採用意向は、80.8%（26企業中、**21企業**）。採用想定人数の合計は**26名**で、予定している入学定員数を上回っている。

◇採用したい学問分野別

- 神戸大学「医学部 医療創成工学科」の学びに関連のある「医工学・医用工学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、93.5%（31企業中、**29企業**）。採用想定人数の合計は**40名**で、予定している入学定員数を上回っている。また、関連性の高い「工学（医工学・医用工学を除く）」でも一定の採用意向がみられる。

◇神戸大学「医学部 医療創成工学科」の特色に対する魅力度別

- 神戸大学「医学部 医療創成工学科」の特色に魅力を感じている企業の採用意向は、すべての特色で8割を超えている。採用想定人数もいずれも50名以上と、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

◇社会的必要性別

- 神戸大学「医学部 医療創成工学科」が社会的に「必要だと思う」と回答した企業からの採用意向は、87.2%（47企業中、**41企業**）。採用想定人数の合計は**56名**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

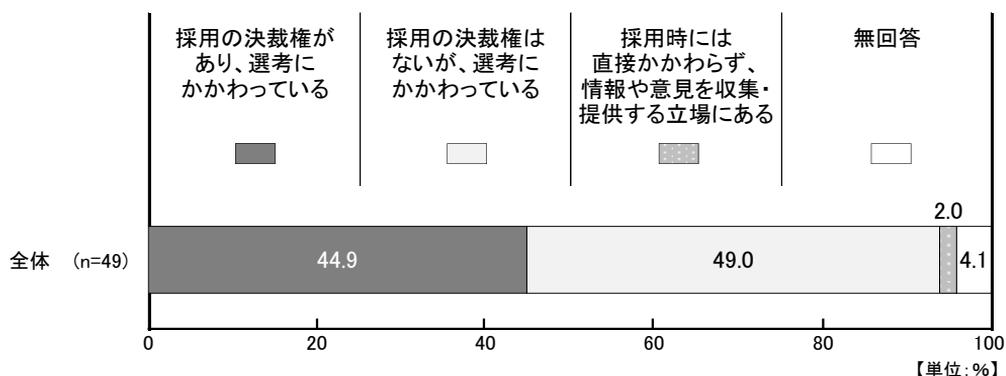
企業対象 調査結果



回答企業(回答者)の属性(人事採用への関与度/本社所在地)

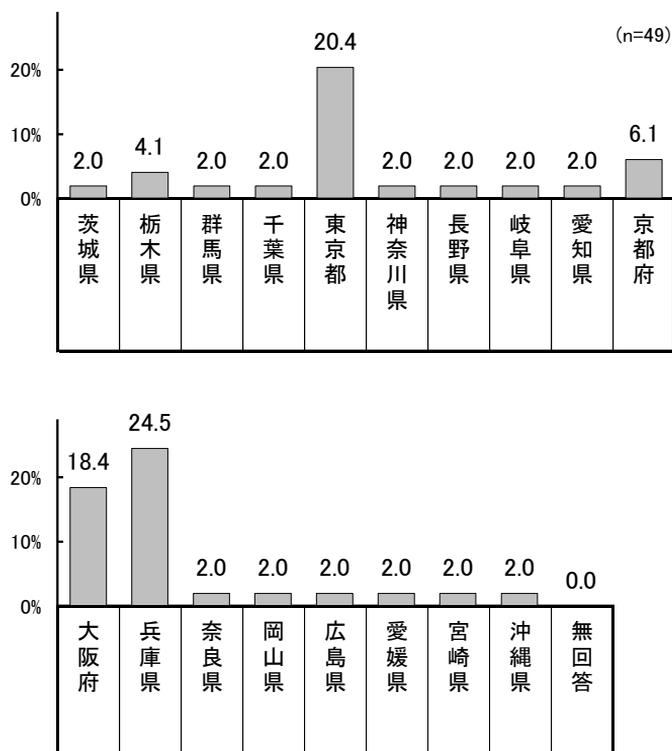
■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)



■本社所在地

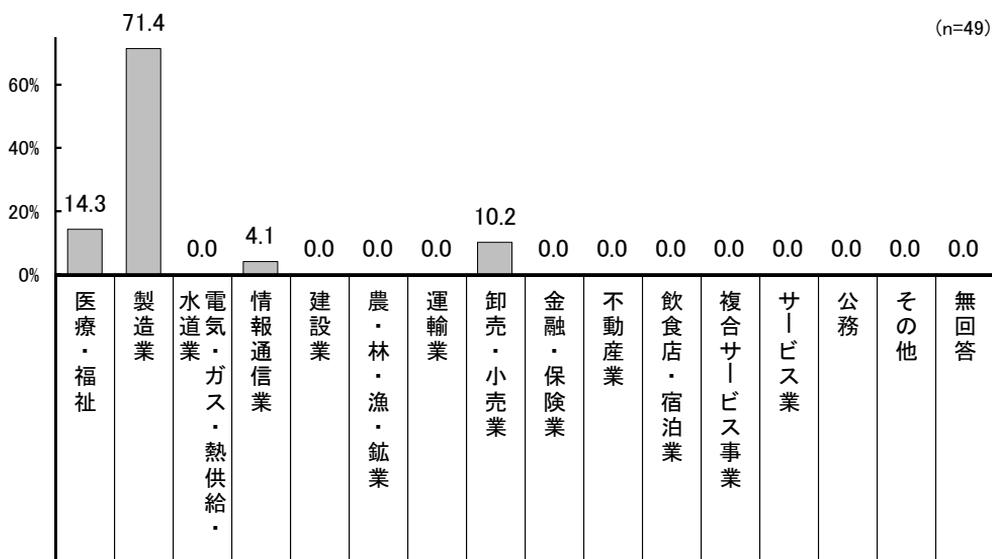
Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。



回答企業(回答者)の属性(業種/従業員数)

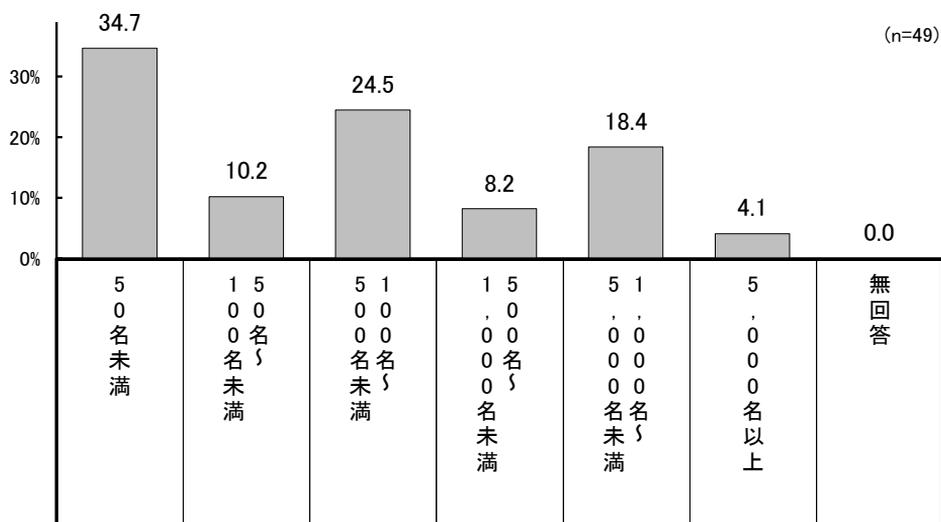
■業種

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



■従業員数

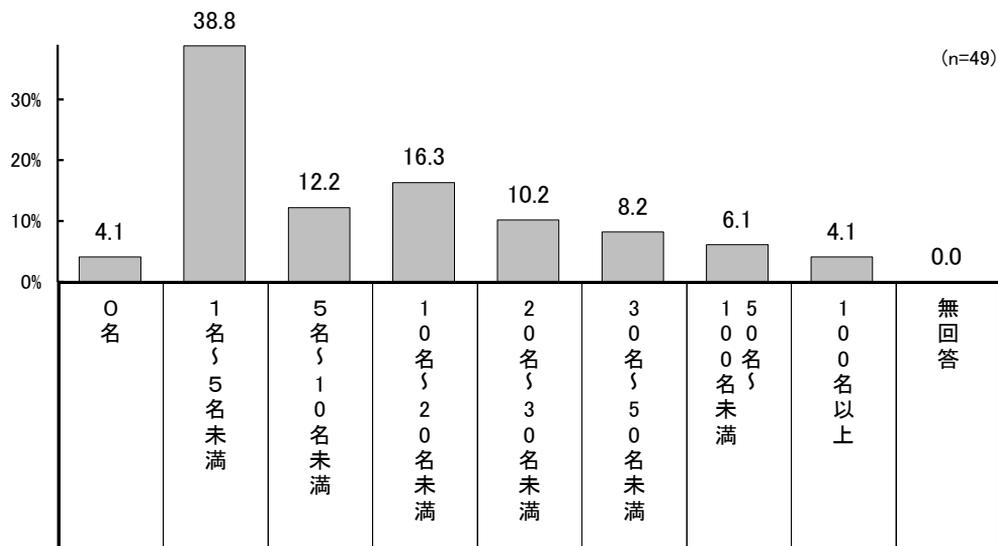
Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



正規社員の平均採用人数／本年度の採用予定数

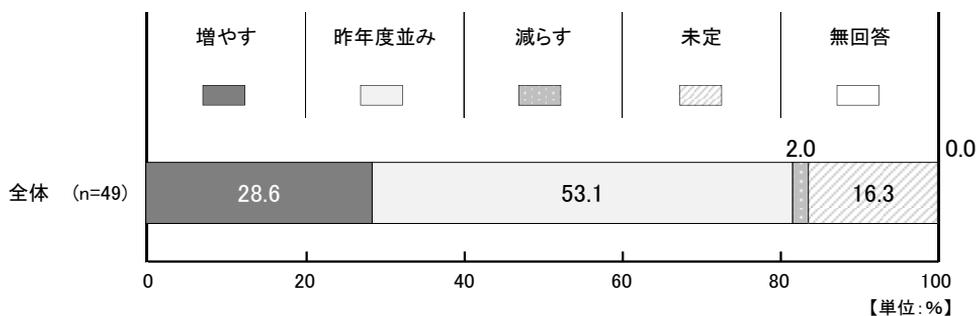
■正規社員の平均採用人数

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。(あてはまる番号1つに○)



■本年度の採用予定数

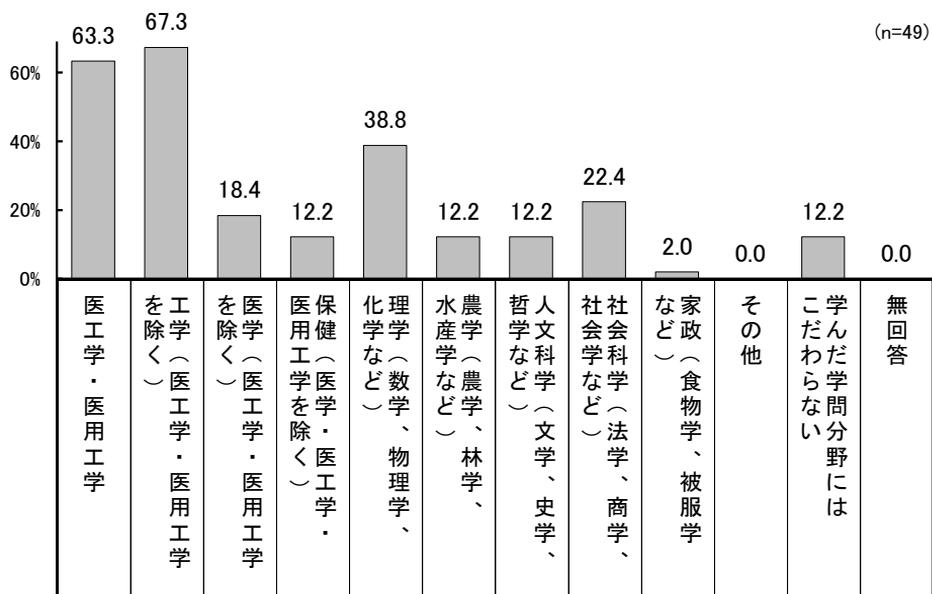
Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)



採用したい学問分野

■採用したい学問分野

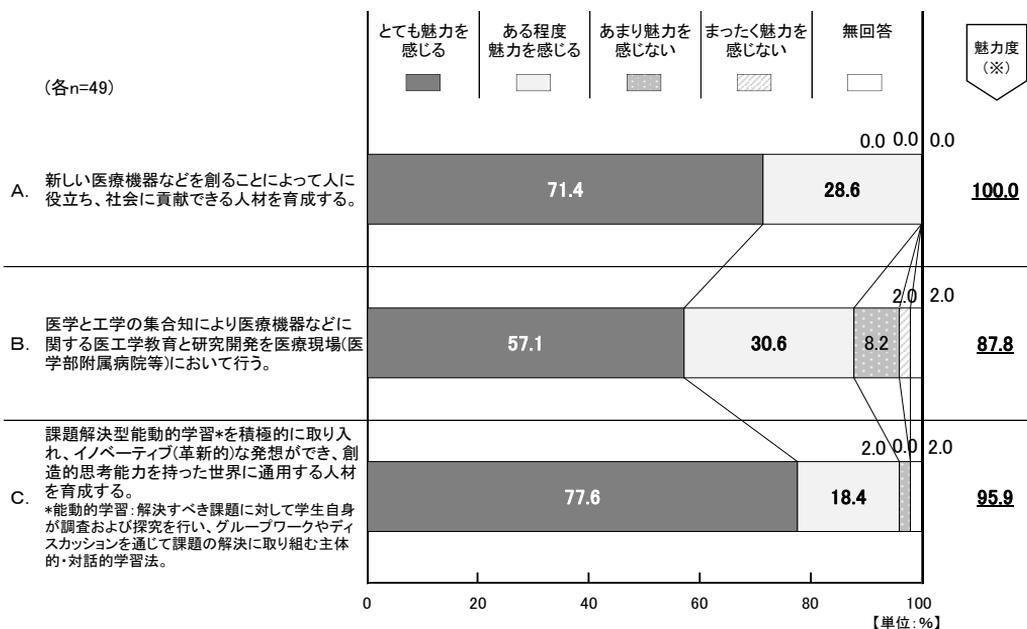
Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
(あてはまる番号すべてに○)



神戸大学「医学部 医療創成工学科」の特色に対する魅力度

■神戸大学「医学部 医療創成工学科」の特色に対する魅力度

Q8. 神戸大学「医学部 医療創成工学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。
貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



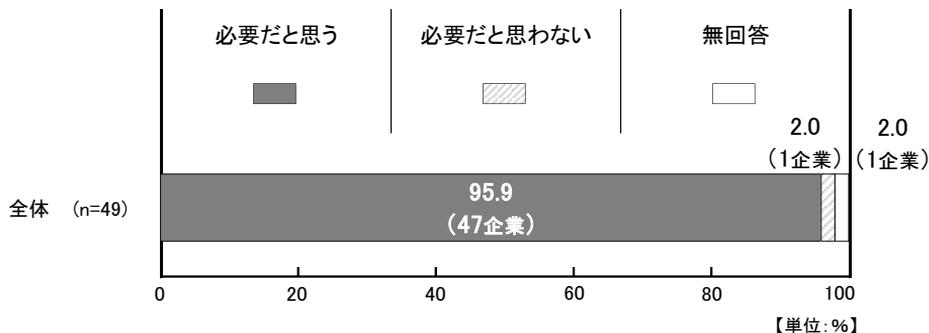
※魅力度=「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の合計値

※魅力度は、企業数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

神戸大学「医学部 医療創成工学科」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生に対する毎年の採用想定人数

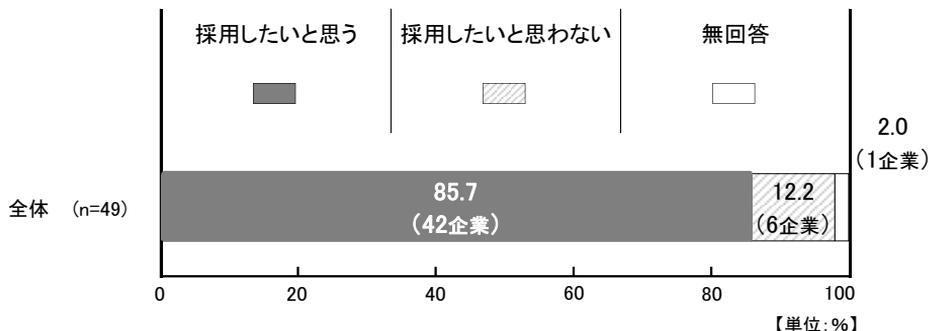
■神戸大学「医学部 医療創成工学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、神戸大学「医学部 医療創成工学科」(仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(あてはまる番号1つに○)



■神戸大学「医学部 医療創成工学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、神戸大学「医学部 医療創成工学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思えますか。(あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた42企業のみ抽出

■神戸大学「医学部 医療創成工学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数

Q11. Q10で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

採用を考える場合、神戸大学「医学部 医療創成工学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 〜 9名	10名 以上	計 (※)
		%	71.4%	16.7%	2.4%	0.0%	4.8%	
企業数	30	7	1	0	2	0	40	
名	30	14	3	0	10	0	57	

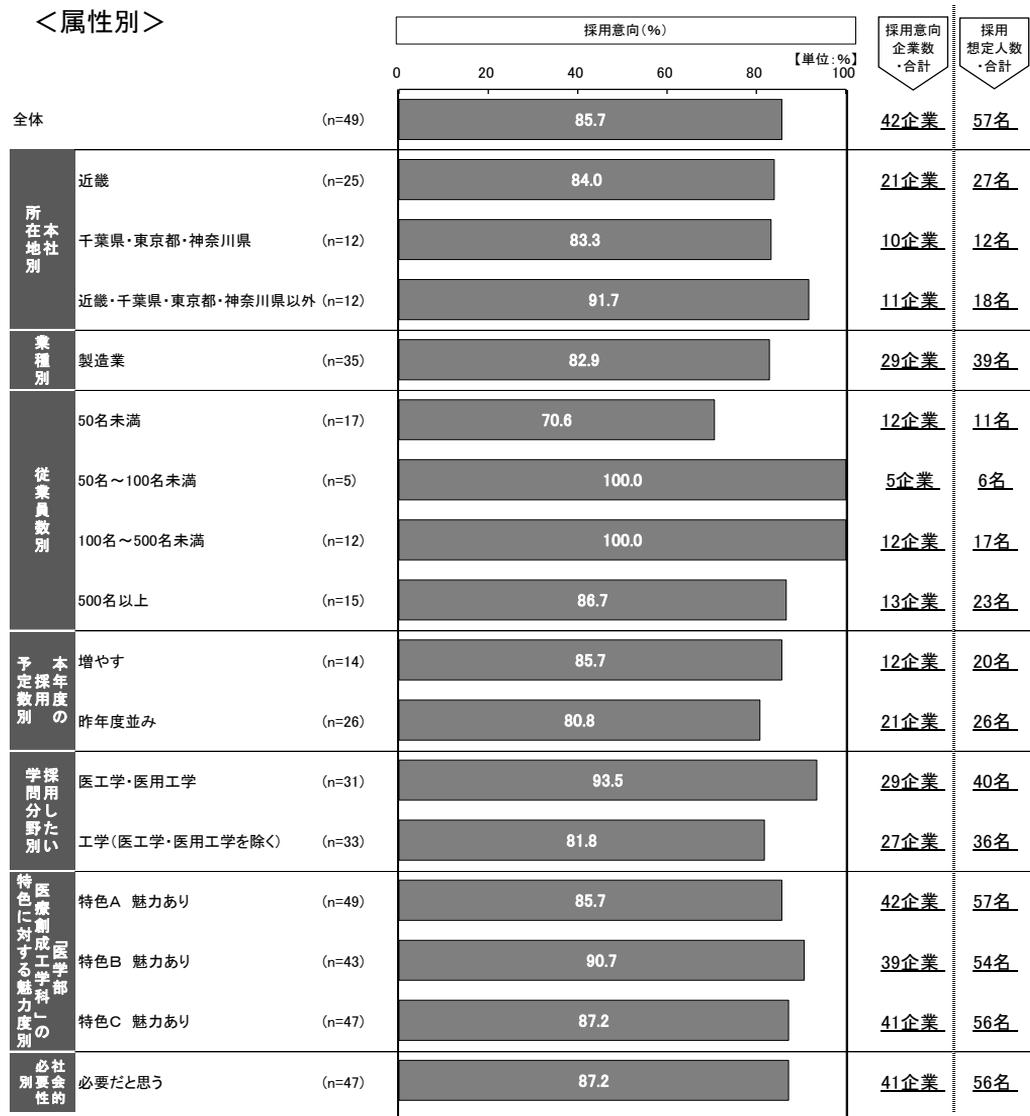
※ 毎年の採用想定人数・計 「5名〜9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

神戸大学「医学部 医療創成工学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■神戸大学「医学部 医療創成工学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

※神戸大学「医学部 医療創成工学科」に対して、Q10で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q11で回答した企業が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。

＜属性別＞



※採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

卷末資料 調查票



調査票

神戸大学「医学部 医療創成工学科」(仮称)に関するアンケート

神戸大学では2025年(令和7年)4月より、「医学部 医療創成工学科」(仮称)を新設することを構想しています。
このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや同封した資料に記載されている「医学部 医療創成工学科」(仮称、設置構想中)に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|------------------|-------------|--------------|
| 1. 医療・福祉 | 6. 農・林・漁・鉱業 | 11. 飲食店・宿泊業 |
| 2. 製造業 | 7. 運輸業 | 12. 複合サービス事業 |
| 3. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 8. 卸売・小売業 | 13. サービス業 |
| 4. 情報通信業 | 9. 金融・保険業 | 14. 公務 |
| 5. 建設業 | 10. 不動産業 | 15. その他 |

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|---------------|------------------|--------------------|
| 1. 50名未満 | 3. 100名～500名未満 | 5. 1,000名～5,000名未満 |
| 2. 50名～100名未満 | 4. 500名～1,000名未満 | 6. 5,000名以上 |

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 1. 0名 | 4. 10名～20名未満 | 7. 50名～100名未満 |
| 2. 1名～5名未満 | 5. 20名～30名未満 | 8. 100名以上 |
| 3. 5名～10名未満 | 6. 30名～50名未満 | |

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|----------|--------|
| 1. 増やす | 3. 減らす |
| 2. 昨年度並み | 4. 未定 |

裏面へ続<→

